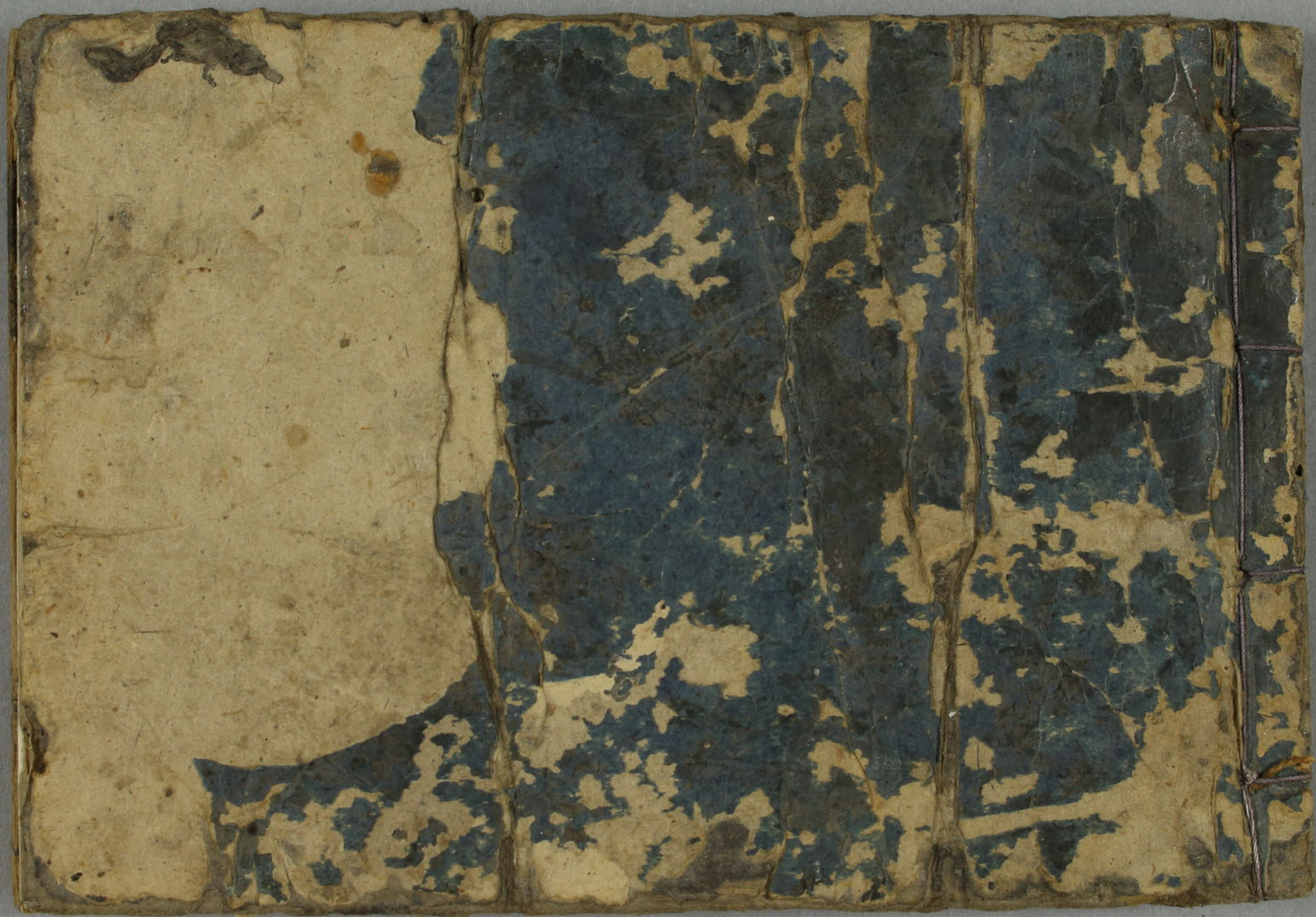
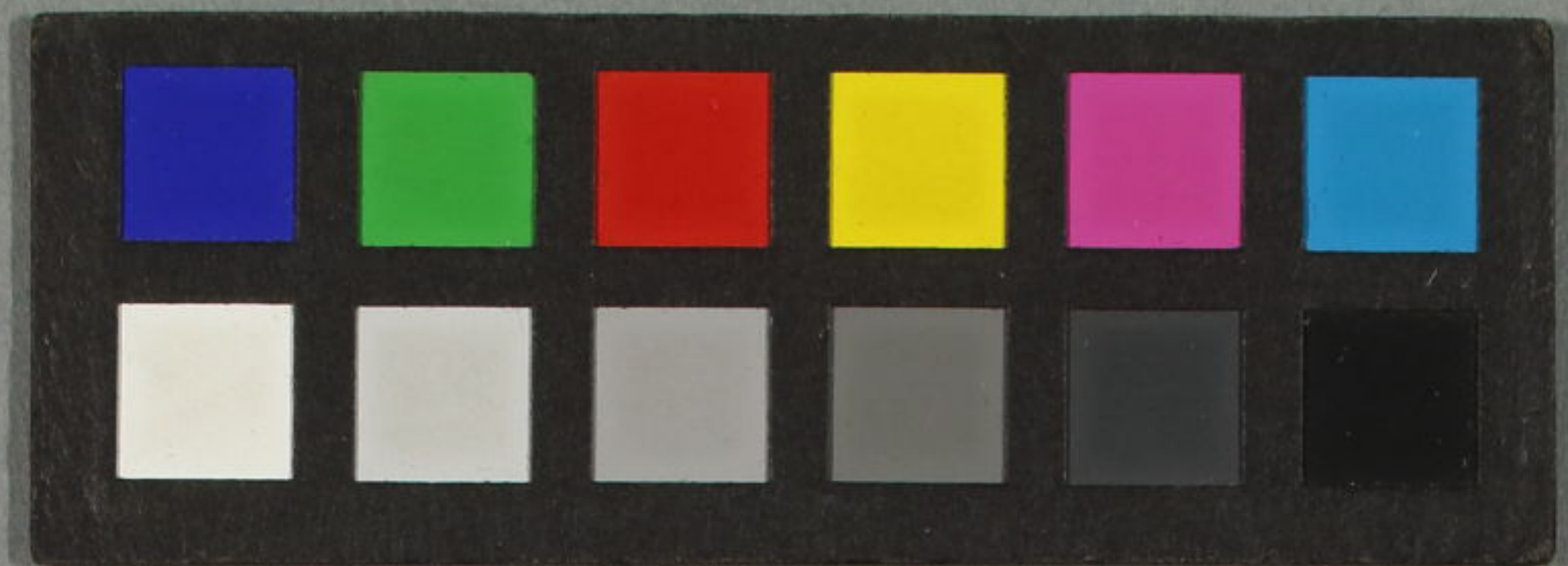






西國順礼道知多

目録



- 一 順礼由來之事
- 一 熊野特現御誓願
- 一 順礼十種功德
- 一 礼方時唱文
- 一 礼後發給之書付仕様
- 一 十二ヶ條方おんたより
- 一 道中用にとすたより
- 一 成三所縁起并御誦分

- 一 日本寺の所作付
- 一 日堂懐多敷付
- 一 神社佛圖縁起
- 一 日本寺の所作付
- 一 日室物付
- 一 名所古跡
- 一 美濃谷汲の作習来文通
- 一 信濃熊野八鬼の紙名布案門
- 一 高野芳野大和のり名布案門

目録

順、由來
杵、彌、毫、大、王、八、惡、業
罪、深、の、地、獄、墮
す、く、の、新、金、泥、乃、法
華、經、三、万、部、一、く、く、
い、導、師、情、磨、國、書
寫、山、れ、性、空、上、人、と、法
一、た、ま、い、供、養、
あ、ふ、い、時、大、王、有、歡、喜
御、布、教、く、程、の
宝、相、法、上、人、ま、の、
く、ん、れ、バ、上、人、に、後、
是、ハ、唯、益、あり、衆、生、
可、為、生、と、い、ふ、あり

三月十七日より紀州那智山を
初めとして同六月朔までの各
段と終りとく西國三十三所
の靈場めぐりのあて自是
明れぬて今代にあらと
は、修、り、し、人、に、あり
然、る、に、持、現、御、折、言、教、曰
我、前、三、三、三、を、あ、つ、び、明、れ
す、り、と、い、ふ、ハ、亦、所、と、く、
く、り、と、受、け、
然、る、に、持、現、御、折、言、教、曰
我、前、三、三、三、を、あ、つ、び、明、れ
す、り、と、い、ふ、ハ、亦、所、と、く、
く、り、と、受、け、
順、れ、十、種、の、功、徳
一、三、七、難、即、三、三、三、を、あ、つ、び、明、れ

- 四 決定付生々々々
- 八 子孫無量々々
- 六 愛敬と接々々
- 七 慈念深退々々
- 八 家内四六親善やがら
- 九 親と馬はうん種字々々
- 十 諸事成就わう々
- 此中疑事やうん
- 札打納頌文
- 種々重罪 五逆生滅
- 自他平等 即心成佛
- 卅頌札切らふとん喝々々

表なり 札のやう 大詠文

奉納西國三十三所 爲何

哀う

南無大慈大悲觀世音菩薩

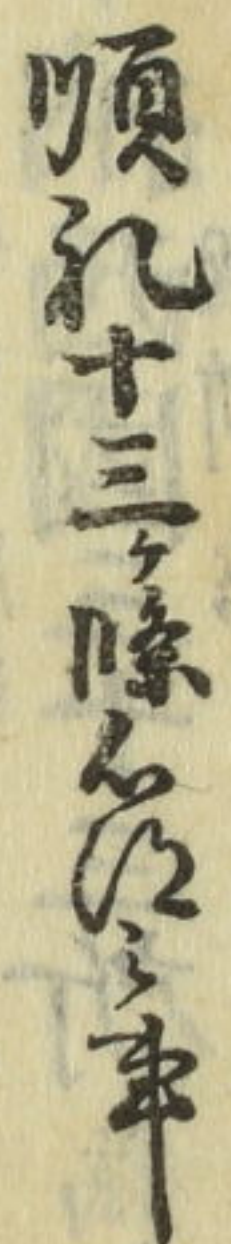
おるどろみきやうん

年号月日 同行何人

張 奉順禮西國三十三所 爲何

國所 名

7



一重位の親音の如きものなり

一 おぢいのお話と順れたる
 一 おくのつねにへうきなる
 一 女はしきれぬとふくむ
 一 しんじりおけいへう
 一 あくわやうでうすたる
 一 まけとてんあきらま
 一 月夜がらんかたに情づかる
 一 舟のゆきに雲のかさみ
 一 身はかりかく金銀をかぞへ
 一 おもひ人はあなよりやうなれ
 一 月影らにはぐやせむつた
 一 よふみやぬ出ようたる
 一 木をこえ父母けうやれ
 一 らんとある人

所
取より停務れ素名まて川
のく七里ありい舟のりて
晴より一船買案合へト
一獲ハ接又陸よりい
ふ付村より未甲はあて二里
半程りて養老の嶺とい山
乃末は保氏の宿といふ
わりびりいれは義経を
つゝあふとや是より十丁
程りて千手観音堂不動
堂とい寺養老とい号次は
より三丁程りて天神乃
よりありいれは菊水といふ
清水有るこころいふ海は

多くと作はハ大王の
富よりハ安楽とい身
親世音菩薩三十三所
よりいふ所一交ハ
新法ある者ハ譬言す
久遠の者知るといふ
して現世あてハ
のふ事ありハ根樂生
佛果といふ事なり
我可謂地獄として別
判と起り上人送る
あふとこより上人
あふひてはけつんと
石の箱籠は世雲

山仲山寺ニわさめり
こふ又人王六十五代乃
帝苑山院ハ佛通の山意
つれあひてハ然野推現
りふ現容式決判の子細
りうもんるりれハ好新
使ハ佛通もさひてり
決判と帝苑のりあり奇
異のわひとやうひ
寛和二年一校遂ハ各人
学とてりなり又は佛れ
目れ内の光りあり
佛眼上人と号とす
仲山寺の遍光法印大和
國也谷され徳上人とた

流きよりハさよりめり
りて此まハ不家あり
なりハ此とて一里十
りて津屋と云ふ観音堂
ありハ佛ハ十一面観音あり
多羽院の御宇おさめ
ハ佛也光成より
うらうと出あり
あり此の福聚山慈眼と
りハ村泊りあり
其ハ六丁ハ在田といふ
は業師堂あり業師大目
許基れハ他あり其所泊り
なり十丁泊りて
とて泊りありハ

経行ハわづは村と云ゆ
い山の腰一ノ行基菩薩乃
堂ニ入セムふあり多十
三重の石塔といふより二
里経行て多戸と云ふあり
い山ノ權現の社あり蘇
いりりくまんの社と目山乃
とよ愛宕の文と云ふありふ
作勢場跡のれ下の観音
堂ありゆりもと云ふ山
よりい多戸と云ふ山に
ありい多戸より作勢乃
玉なり是より素名まで
二里也

○素名 作勢四ノ七里

世の海邊と云ふ山城主
松平越中守殿拾三石は
春日社と云ふ本統寺と云
向宗の大名といふ所や
川と云ふあり

○四日市 三里八丁

世の海邊と云ふ山城主

出で川と云ふ

○進分 二里

い石町あり又家と山回
のまくれなるあり

○神ア 一里半

い石町ありゆりい石

石川と云ふ守ありい石

武方石

○志保^に 一里^は

は不町ありゆり

○上野^に 二里^は

は不町ありゆり

○津^に 二里^は

は不町ありゆり
は不町ありゆり
三十五万石といふ
あり正親堂
門を所小文と本堂
寺と源元禪師の
門を恵目山本
額有又いふ
は信謙阿弥
開帳ありは町
す大町

○雲津^に 二里^は

は不町ありゆり
と後舟らんニ

○六軒^に 一里^は

○松坂^に 一里^は

は不町ありゆり

○同系^に 一里^は

は不町ありゆり
仏の寺あり
く田川と云
てうんが坂
は不町ありゆり
○明屋^に 一里^は
は不町ありゆり
て新屋と云

又あけぬと云ふなり

○おむさし 一里

は所河にけふ清くは川
はしふもあらんなり
川あてふふの軍後より
あり

○山田 一里

内々外々とも小萱あき
南向く末社百二十社あり
外々の山を新池池を
日本乃清水れ始とる
又あふ毎年六月十六日
十七日ハ御祭れに廿日
出家とあふ山あり外
々の南の方ハ天の岩戸

ありい山を神海山といふ

○浅間

登り坂八十丁と本堂
虚空蔵也又佛舍利百文で
開帳又山あり池といふ水
ふらりてふ

○二見浦

沖塩殿 又あり又立
石とびつらりつらり
より塩があらぬなり
ありまた塩たなり
あてふふあり

金葉集 大中は補弘

なぬりけ二見浦其具三つ
ありあてふふあり

はうれ家集よあうーは

○宇治橋より

あまふに 一里

是より熊野橋よりわく

あり

はあふ町有紀州板屋

一里

○池邊に

二里

はあふに

○あふに

半里

はあふ町有紀州板屋

はあふに

○さあに

一里

はあふに

○おとらあに

一里

は村向より

○あふに

一里

は村向より一里三津村

あり向より一里一里

或は川より水より

は越え三願坂あり

十二丁より十二丁

弓より松をむあり

○野鹿に

二里

は村向より一里

大時神の社より

坂より小坂あり又長者

野よりあふに

あふに

○あふに

一里

い村ゆりうーい村すー川

あり
○柏野の 一里

い村ゆりうーい村すー川
まろしきとて一つさ

○山崎の 一里

い村ゆりありはる川さ
多知戸時ハ有るありさ
あり

○二海に 一里

い村ゆりありはる川さ

○まろしきとて 一里

い村ゆりありはる川さ

○梅谷の 一里

い村ゆりありはる川さ

い村ゆりありはる川さ
いるに坂とさ坂あり
海

○にがうに 一里

い村ゆりありはる川さ

○もろしきとて 十丁

い村ゆりありはる川さ
いるに坂とさ坂あり
海

○本宮 親迎とてさ文殊

○普賢 額ありちきし

○光徳院 月新の筆門

○大崎山とて同寺いふ海
こよ大崎のえあり

○線のみとてありいさ

○海客とて一里あり

はるる本のかく海に十
六里ありん根鉢珍なりと
はるるまが傍的^{たがひ}海^{うみ}か
ぐ一松冠乃^の名をこま
海上の一系あるといふも
田よりうらぬ時ハおあす
のる海一田よりうらぬ時ハ
のる海一又はよりすま
ふよのるあれども田より
うらハ三畧^{さんりやく}よりとる根ハ
のる一又は江別^{えいべつ}生海^{せいかい}
も命^{いのち}さつハのるでハれき
ぬふく又^{また}る^る海谷^{かいこ}汲^ひも
路列^{ろれつ}幸^{さい}名^なもてハ川の上
にれハ案^{あん}トれあも能^{のう}あ

のる一まがのあれき
のるももる一ぬ
やうよあつて又^{また}陸地^{りくち}
も海より右^{みぎ}里^りの一あく坂
と云ふ坂ありは坂まて
又さうあり

○右里^{みぎり}に 一里

は村ありありはるのこまの
坂あり

○た^た海^{かい}に 半里

は和泊^{わどく}ありはる三浦^{さんぷ}さ
あり

○三浦^{さんぷ}に 半里

は和町^{わまち}三丁^{さんてい}ま泊^{どく}り
けるるぐら坂あり

馬場 一里半

は所あり泊りける
川つらき岩なる井村
上里村以上里を所あり
石上里原ありけり
祝音塔至あるの御地
中里村を所あり出に
川あり下里村見も
町あり

○舟津 四十丁

は所町二三丁あり
つらき

○香代本 八丁

は所町八丁あり
は川つらき河の川

あり川あり水出
は所出より右の
砂んの山と云ふ
おびんの村と云ふ
ありて一人三
湯す湯はより
坂と云坂と云
はくは川を
おのの町は
坂のたのまは
岩と云大ま
又ありは
佛ありは
化と云
り

れうに一里半

は河出の中は川とて川
あり又えんをの字川とて
わうしれ川ありはわい
しうし町とて千羽の
所とてはふつとて海上
本の本とて七里半とて
まて二千里は陸地ハ八
里山越えは坂より下り
三里とて落くはなり大
木わいひうなり我を
わいわいあども居てな
せうく石たう向をえ
るうし一休びべとて石を
なり一里半とて大難

所なりより坂は七曲
とて下り下れるは難而
あり日より坂の門十五
堂とて是より落のま
まて四十九丁とて二丁
二丁は石の地とありは
寺山号ハ八里山寺号ハ
日輪とて云々なるは入る
すの堂とては丑寅向
のまて本堂ハ石の三堂
荒神とて二尺六寸弘法
大師は神也とては阿彌
陀菩薩観音弘法の名
ありける向のまてふ九
里半とて云々あり坂より

廿ハ三界の邊へ出るた
も良村とて一二丁あり
右ハ三界れねるへあり
小川を以山作の末のる
より大海入ゆ。

○三界 三里

はふらうの町二二丁あり
ゆりうは所より岩根
入海の上二里れる一人す
みめて西のするは海
のりてふらうの陸地を
ゆけむ二里八丁のる三
里坂とい坂この西
とて坂三つを海とふ
よのきむ右の方にある

は村とて小村といふは
この村とて二百里とれ
よりをえんゆはえは
根山の峰は佛石とて
丸きまき大石えゆる

○曾根 二里八丁

はふらうの町二二丁あり
田八丁ありゆりうは
岩根治郎岩根大
とて坂ありは休より
大海又ハわ村岩根所入
海入ゆ。

○二界 一里八丁

はふらうの町二二丁あり
ゆりうは所より岩根
入海の上二里れる一人す
みめて西のするは海
のりてふらうの陸地を
ゆけむ二里八丁のる三
里坂とい坂この西
とて坂三つを海とふ
よのきむ右の方にある

比川れぬよ町ありの若
井川むふよ観音堂よ
け町より大い坂あり
坂よりい坂中なり

茶やあり

○あしきうに 一里

比不海より主町三四丁
あり向う一村入にと
中とふ川と右の方ふ
正崇寺よりふ徳のこ
村出口よえありじり
大ぬこ坂とく小坂あり
坂よさより松とて一本
二町よとくあ枝れより
うばねあり

○もうしに 一里

比不海より二丁と山の腰
あり向うあり是より大
向う村の観音くあり
○大い 一里

比不海より町四丁
あり向うい所より回
村九れ建立あり一観
音堂あり長二寸八分に
く縁乃千平観音の海
より揚より佛とあり
町より右れ山乃うあり
町より右れり十三丁
あり比所出口は川あり
波り比不海れぬ

藝よふが坂より不
なりは川能なり海
より大浪打あけし浪
乃引く時海より
越る海をさしをれ
時な海ありあきと不乃
人く海はる本れが坂
の跡よ葉金あり

○本之本に 半里

じりハ鬼のふし書と
い所あつさうの町あり
家に入百とあり和ふ
山田なりふふし町出
口よ和の方さるる経
るふふさうい石とて

岩あり町東の海中山
の出海よ鬼が城とてれ
そらーさ岩やえい
は不鬼作ふいふ鬼
乃ふと云説ふ町出口
濱なりは濱又六丁の
ての海より川とて川さ
北川も大海より浪打
あがふふし浪いささ
る残越る難ふし川
通てえふ海をさし十
七八るなりふふさ
海より大岩あり東向
あり是より和のり
村いふふふふふ

の社あり世持現入仁
王石とりありは岩乃
おーら二ハ口をひくき
一つハ口をとりて看る形
よ見えゆきし所すき
先よ大般若山ありそ
るさ何れもあきす
南向岩壁也びぐん池さ
のよあどにかき穴あり
是と花乃岩金と云く
前よ石れ燈臺也つみ
いづき名井ありは岩の
前よ二蔵法師の経と
りりふふとて聖岩
と云岩あり是といづき

のうらよありは所毎
年二月二日は祭れあり
とて世般若山ハ有る村
の入口なりは本れ本有
る岩浦ハ浪あきく地ま
海く岩の作らばや
りあきとらりや

○有馬に

中里

はふを所二三町ありは村
十丁程ありて右ハ本れ一
り遠たの松系へ入て新
まくりたりは松系一
里ありてあき川は川
あり難ふあり親と
とて川もきは親

新文那知新文北三山
 又ゆるりて新文北入口
 なる川と云川ありあも
 ありけりて永貨往來
 此祿の人よハ又明礼系
 商人ハ数千人又ゆれを
 賣所とてはれりて
 多り(を)あはれりて
 定所半あり内九分ハ
 新文北安徳と云社優
 新宮に 一里
 新文乃文
 毗沙門天
 不動明王

釋迦如來
 文殊
 普賢
 正觀音
 如意輪觀音
 龍樹菩薩
 地藏菩薩
 十一面觀音
 阿彌陀如來
 藥師
 千手觀音
 右新宮社乃如來
 あり門三あり
 以前より冬ハ葉北雪あり

あり御神木之石を小
天より降ふとて大釜
鉄の石を三つに割き
口を三つある茶釜を
毎年七月十日より十
三日までおこなふ茶詣の
者より茶詣する人々
此社の後より一切経堂
あり世経藏よりつと
三層の石を三つに一切
と一かたつとつとひ
茶詣する人々
社家ありは社家玉く
茶詣人々うけられり
回郷といひては回郷

此師ありてありあり
三山とてふ山あり十三
丁川とてふ山あり
御後所あり世所へ毎
年九月十六日御出あり
て日霜月十五日より
あり彼川中ふ山に橋
とて長六十石巾三十石
乃舟れどく乃橋あり
旅客の時橋を以て
三層の石ありあり
御山東にござる所
なりは町赤川岸は天守
ありは城主は紀州様乃
此家老水登對する三層

千石又足より東より三
然野村あり上然野村は
ありすの神の社又八志
ふれえ中然野村は
蓬萊山又八志より山と
小山あり下然野村は然
野村別当ゆき家れ屋
しあり世出口乃町
天狗火打とて火打の
野火あり格作あり
○神蔵は本社より七下
本を控視之堂十一百六
辰己向也石の櫃三丁す
のちるが堂乃うしるは
天狗岩とて岩あり

は神蔵魔所なりと
時よりハのちる色く
はありて南谷とて小山
あり新文の墓あり

石塔多し
○廣角は 半里

は西条やあり海より
はる海色よりいふ
まとして海打とて
よりきつれるは通るた
乃岩巻より天狗れた
らいふは井より後
とてより月より小坂あり
○この日づは 半里
は西条より町は八町あり

治りうーい町家ありて
岩よ松ありて珍嶋と
いふ小嶋ありて岩ありや
の磯よ取とて日次丸
嶋といふ嶋ありて天
乃社いふふあり

○さ乃に 十五丁

い村うさ百姓家ありて
治りかー海邊にい村
ありてふ松ありい中
ありい松ありうさ
村のるふ那知黒といふ
基石といふありてひと
世るうさい村の入口磯邊

小太まれ松とて岩の上
谷木ありて松ありて今
極ありてあり又同方
嶋といふありの神れ
あり嶋あり又ありて
こよりたる大嶋ありて
天乃社いふ海よりあり
目さめ山とて小山あり
○うさい 二十丁
い村治りうさいありて
かうとて小坂ありて
りて赤色とて山れ腰
すさて濱乃文あり

○濱乃文 一里

えさう

藥師

彌陀

千手觀音

は千手あつせん音
所本社あり
辰已向あり

千手觀音

はくせんぜん堂ハ三社の
にハよきとあり三つあり

川名ノ鎌倉あまね軍

の石塔あり鐘樓堂又

補陀洛寺とてあり

は和町三三丁とあり

若ハ大海ありハ海中ニ

細切瀧とて山ありハ

おれ社僧未後井町ハ

あまねなりて海アハ流

せりありハハ海れ文

那知れ根元と云

満の文ハ奇

あまねとて付れとて海

諸君ありハハハハハハ

はる川園村松野村井安村ハ

サセと村ありハハハハハ

山ハ洞野おな山ハハハ

又市野村ハ村中ハハハ

王子後現れ文ありハ

二の沢村ありハハハハ

二三丁ありハハハハ

那知ハハハハハハ

ハ下馬ハハハハハハ

ハハハハハハハハハハ

ありハハハハハハハハ

六丁石壇より社まで
石ごんなり門日本第
一大霊驗所根本総野
三石權現と額あり社
門を入て右れ方八丁
りて池ありいささ
おんの後記あるん
けいふ節い所を
深山にて筆さし池
数千丈より落ちて水白
さかき天より落ちて
あり水れひさふ地震
乃とくも色ゆきぐ
たさのあ一丁やとへそ
池れおありい所へ

水々づりのごとくあり
はねありり池とれね
よりありたふれ流大河
乃とくい前護摩堂と
かき千手観音也此堂に佛
乃香成らたく曰あり系
乃人七難とれづとて
らつてまふ池とるい堂
よりトよ一ヶありい池
より二丁程ありい社
登る日れ道とあり

えまづり
飛龍権現
阿弥陀
薬師

千手観音 以子多き事今も此の
社に傳へて并ひて云
若一王子 辰二向なり

不動 釈迦 文殊 普賢 地藏 藥師 阿闍 大黒 役行者

まんぐん
大黒 是より世寅向く
右一所なり

△如意輪觀音

世堂取礼一番れ所なり
本社乃うーうれ方
みろ四面辰已向法思法師
く御建立光行上人滝より
析り出ーの御佛なり



一番 のち八二五年
千六百八十五年

ふさうやさー
うの波とこふ
かられはらり
をくをれつセ

以那知山鍾樓又八廻廊
ありの庭一軒之と目前
の大釜より大本乃系梯

一平あり山あり其處この
山師定りありはれ而乃
歡喜れ右より大雲より
飯よりあり世大なるれ
さうそ大本数なり其
さく系あり而之大本ず
あつては多き朽く是
とのり越てりなり其
た妙法山阿弥陀と
て比丘尼ありは所
弘法れ法化弥陀あり又
弘法乃四十二次の山自他の
本像あり又いふと和尙
の本さうき後三堂荒神
前六角れ骨堂ありりて

あ見えなげき業あり
いふよりありはれ而乃
塩れと湯えゆる是より
下るなり一里すまで
石くれ業ありては是
十四五丁先は越前く業
やと云ありあ見えたり
二里くは越前れ業あり
てさう切坂と云難なり
下り坂なりりて櫛れ久
保乃業ありと云ありりて
小口村之濱れより本
文よりと薩れあり
と云道乃是者又那
知よりなりふ路を

ありい船路とすま
乃ちかどりとま

小口は 四里半

は村を所二三丁あり
村中三川を村知て
小坂ありめて小口川あり
水出よふあり大水す安
中水セ又小あり二ふり
小口村より三十丁ありて桑
やまはより四十丁ありて
沢ぬこと云ちやをあり
是より百里ありて山中に
桑やまのふちやをさる
りり先を桑やまのふち
村よりけり川にれありて

小雲おとそなる大雲
とり坂と同名ありは坂中
むと七尾七坂七曲とて
山頂のまがりありて
うけ川は 三里

は村を所二三町あり
いひ中より川あり
村おとぬ流るはうけ川

本宮は 十八丁

まんうん
びあまん
不動
あやう

ふん

文珠

正觀音

如意輪觀音

龜樹

ちえと

十一面觀音

阿彌陀

ひあまの弘津和社之
さきも長己向あり

藥師

千手觀音

神樂堂十萬十三萬二萬

柱數百二十九本九柱之

門ニ
歡迎文殊
普賢あり

又以此倍所為律糸料クラヤ絹子

十二 御膳料 十二 三山元

月杓以堂北南ノ岸盡あり
毎年四月十五日に能あり

庭は天よりなり、庭大釜一

何なり新交那知此客白

前弘法大師大黑天

役行者右ノあり廻廊

退破 二百八十

ありてはうれいに控へて

ひささき雪路しそみ

のきりし新書

口より山と音を聞か

は川上をとりて

後、川を渡り、川の流へ

眞院まゐのゐは地主ぢしゆ持現ぢげん天神てんしん乃

金一ろろ又日光月光
玉本三千持現ありいは
一本抄三本抄とくは神本
あり月わくのめんは白川
法皇又泉武部は石塔
ありいはあまを文造り
けらるる事三山は内よ
もぐれりいはそき國
の山師さるあり山二安
あまそと年よあま実の
ありいはあま所安下
るはあまはあまを
めて車返一坂とく小坂
あり詩よるはあま
石塔ありはあま陽入る

湯客年一はあま
いはあま家たあま
あまはあま入口よ土橋
あり坂のりつこい
のあ一遍上人は名号と
あま南無阿弥陀佛切
つけてあま二重は塔
あまはあまあま
あり月大日如来文珠
普賢春日れあま
あまはあま石塔あり湯川ハ
北南流あまは川のあま
湯あまは西ハ男少中ハ
あまはあま湯之湯後

三文こびうが湯に
入が腹一多ひくと云い
湯屋れやよ茶師堂あり
い加来んくぬさうふ石佛
御胸よ小き穴ありい
よりいふへ湯王こ
りり百文めて用帳い
ひふ王子持現れえ居
ありいゆれ峯より亦
本坂と云坂へよる二里りて
え越れ茶やとてあり

井井川に 二里十丁

い村立町一二丁あり伯
りて急がと坂とてふさ
ありい峠よ王子持現の
えありけえ乃下よ茶
あり又坂りて茶やと
け次よめうと坂とて小坂
又次よこひうと坂とて小
坂よ茶やあり

野中に 二里半

い所立町一二丁あり
村入口よ王子持現あり
け下よ茶やとてさうあり
け下よ茶や中れ清水とて
清水あり

近露に 三十丁

い所立町家造りの村
い村中小川あり村出口
柏う峠とて小坂よ茶やと

りて大坂とてさうあり
はたさうれよりありしよ
ちやなまの跡へ半里はた
十ふちのふちとて坂ありい
下り麓よ十丈村とて桑
や六七軒のふち

○高原に 二里半

は村ゆり

○あむに 九丁

は村ゆり——入口より川あり
はる遠くたうきとて坂
ありあむむきよりたうき
一里のふるまや二町あり
はたさうれより桑やありは
より大海へゆる向のたの

方金山とて湯所れむき
ゆる川ありとて遠くは
白くえゆる川方海中より
むき穴岩とて大岩あり
より坂一里半は中より桑
やあむよりとて三頃村あり
は村口よりあり

○三頃に 二里半

とて次中三頃下三頃村とて
むきれり一里ありゆる
中より出口とて下三頃村とて
川あり下三頃川とて
丸村とて是も上中下より
村一里のふるま中丸村半頭
天王れあり

田舎に 二里

は所々所ありて海邊に
は所紀州様家老安房
が力な位なりは所出口橋
あり是よりみまへたも
と橋とて海ありは所を
より三里ありては村又
三里ありて酒井村あり
は所は海邊なり

二那名に 二里

は所は所よりは所あり
出口よりありては所を
所は所ありては所を
出代は所よりありては
は所は所ありては所を

は村は所ありては所を
一ふふれて今ふふ

曾根好忠

是れをいふは所を
千とせめを誰とては

は二村とては所を
きるを村入口よゑの
所とては所ありては
は所の海中は所あり
のえは所ありては
は所の海に 二里

は所町ありては所を
は所は所ありては所を
不動は清水とて水あり
は所は所ありては所を

いなりこに

三里

は所お付町四五丁をめぐり
多う町出てたて御里に
濃橋清水をふみゆ三里
りてうへ村とて二里の門
四ヶ村をいれ村をてとて
のうとて橋をい右岸履
環をふみ砂れを司が娘い
あてとて里とねぶ捨玉と
あり河を塩を村とて村を
おまた川とていふ所を
後一ふらん袋ハ二又し
川とハあさし川とよあ
まの村わりの家よ大木乃

柳ありいふと都司娘を
ゆとねぶとけりとなり
とてをさくしてこの村
とてとて村をいれ村よ
ゆあさしとて一向宗れるん
ゆとねぶとていふとてこ
村多あり後一れ堤とて
三十丁とておバが井村
とてゆりもとていれ村とに
しハ丁程りハ道成寺

道成寺に

三里

いふ外は家々一ゆり
天香山を成るしといふ
る千々観芳堂南向

あり石壇六十二より堂
前より鐘樓ありあり
うゝうゝ四六けん先
ぐりふ竹木数あり
中より堂ありよりより
後より堂ありよりより
乃ち田中より女の入
りありあり今八回より
なりありありありあり
像起いさよりありて又
ありありありありあり
乃ちありありありあり
八幡山よりありありこれ
よりありありありあり

大山よりありありあり
富安村は先より萩原村
又次より寺村より三
村は同よりありありあり
○原谷は一里あり
は村乃ちありありあり
はるよりありありあり
ありありありありあり
より一里ありありあり
ありありありありあり
乃ち日多ありありあり
すよりありありありあり
むよりありありありあり
あり

井園に 二里

は村泊りよりいふ中村
とて村を泊りたり
鹿村とて海邊を泊りて
乃人所より

岩佐に 一里

は所入海所三里あり
泊りし町入口に川あり
は岩佐より紀三井寺
までハ五里中あり
あり陸地ハばるあり
どとたよりとて小坂
ありよりて右川村を
泊りしりていとが坂
は所よりありは所より

春時乃妻れ名なりあり
いよおに 四十丁

は村を町あり泊りいふ
去所よりある雲麓山
得生寺といふなり
あり太子れり
乃あり右に中将娘に十三
才の才よりありいひ
山得生より人王四十七代
大炊天皇乃御宇天平
室宇年中の系創し
むく横佩右大臣豊成
公れ皇女中將れ内侍十三
乃ありとて継母の妾あり
所別不谷よりありあり

つゝ隨刑^{たづな}阿^あ時^{とき}といふ
者^{もの}いづらとちなりきり春
時^{とき}判^{はん}發^{はつ}して得^{とく}生^{せい}と云
同四年十月十三日^に生^{なま}生^ま
ととげり其^{その}處^{ところ}に於^おて
得^{とく}生^{せい}と云^{いふ}と云^{いふ}と云^{いふ}と云^{いふ}
海^{かい}蓮^{れん}源^{げん}信^{しん}文^{ぶん}覺^{かく}西^{さい}行^{ぎやう}可^かと
け山^{さん}あゝとととととととととと
され鎮^{ちん}守^{しゅ}ハ蛭^{ひるこ}子^こ八幡^{はつぱん}春^{はる}日^ひ
三社^{さんしや}あり

清水

下
の
共

阿彌陀の井

西の堂 西行建五のふあり

上の堂

伴方が獄

經のひも

白山現
寺が廟なり

中將乃洋々石の田地を

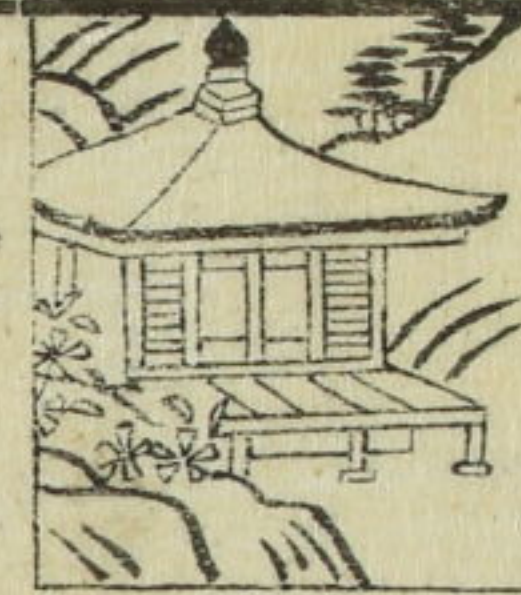
乃石塔あり

有田川と云ふ野山奥院の

宮原

は所町わつゆうきう

塔あり門ハ廻じりて
堂ありりやぐさ 於こ
法師の建之且那ハ
うにん天皇^{（後）}より
上人宝龜元年より



ふる里とてく
さふ紀とて
とまれとも
らかくらん
日武多
以多より廻とん下せん
和寺の浦んてそ影
等よりちりり
より妹背山ハ十五丁小舟
一艘 四丁又いそ也やま

奇又天乃社と東南
といじん掛作いふ系な
ねと一ち一めて玉作
より衣通娘れ又之東南
前より洋あり社の南
宝くありいふ津屋とて
町ありいふ 和寺とて
作町ありい所 持現様
の山あり本堂東南石檀
門ハ東照宮と額あり門の
門石ハ護摩堂あり本
社ハ三重れ塔あり物社
南ハ茶師堂あり石だん
より下ハ石のる井あり
いふ井れ右ハ師た

和歌に 三十丁

い所あらまゝなりとく作
所へ泊りていり用道前
松をわきとくあらまゝ
おろき石又少りて龜岩
とて海をさふあり又
すきとて月方愛宕山あり
少すきとて海をさふ山あり
紀州様御新念所とて

和歌山に 一里

い所御城主紀伊中納言様
五十五万五千石入口は吹あけ
町といふ所御大智寺とて
大ささかありて三十三ヶん
堂ありり山城下すまてこ
潮やとて海を泊りて八瀬
やとて海を泊りて城下より
是と三里い所ありて二里村
とけ村とてと泊り

岩手に 三里す

い所と泊りて入て川後
一里とて人質とて川後
とて海を泊りて岩手村
す里りいさ村泊りりて
上野村打田村とて村りて
たて田の歌音堂とて
おろき村とて泊り

粉川に 二里

三番

い所と泊りていり

貴坡江

三里半

世所ハラス所也漏一以
毛と二下つとて山中乃
茶やとのふら茶屋といふや
うりも野山擅上まで六
十丁わりい二十くおむさ
率都婆のどくある石ひ
ありこれ山中れ茶やう
四入丁より片装束なり
石とふ岩ありは所と
かーけりて福ち窓とて
福ぢりてはつとわり酒
わーあび窓とて大窓を
なーあぢてトハ人乃
入るまじりとあきてあり
は岩井トふ大師乃に
右れ手れあとなり葉文
うり窓では面とて七
文木としふ本あり根は
一本あてとへハ松梅楓竹
白拍搦あ勢が是ぞそと
えんあり又かーけりて鏡窓
としてありは窓れ面積れ
なりいあへハ人の親あき
ふえへたゆと今かうすぐ
とりてえへおごーけりて
こ川としてありは面とすそ
護摩堂なり又りてけり
とてさうろ次七本松と

松七かろくして三所より

て下馬所

高野山

六十丁

は紀州口は大門に仁王あり

中乃門多聞毗沙門の本

社ハ四社あり第一は仁王

とて弘法大師乃西の堂前

三これ本あり又大塔あり十

二乃四面門は大日如来菩薩

ありとて觀至是乃佛あり

塔ハ二重也又是切地なりとて

大師乃西他石佛も大師御

修りし時に付まうとい有る

是切なりとて佛之其外堂

ありとて多し奥乃みんを

御廟れり

とて是乃時無業乃人

なりハ大蛇眼ふるて蛇

事りあり是乃所は本あり

石なりとて七つさちあり

まをばりてはゆるとてす

しとて七ありは後なりとて

は時供養に建立せし石

なり也又玉川の水とて蛇

乃能くは川あり毒の水と

大師乃御奇なり

とて是なりとてやある旅人の

とては奥乃玉川乃水

又蛇柳とて柳あり汗とて

地なりとて石佛あり毎日

登乃四つ時分、山方あせう
さうあともやや堂とてか
ぬやれ堂あり、又四圍あり
本尊観音春日れに他なり
又わろや慈谷あり、そり
海仲法然ふ乃石塔あり
又日本諸大名れ石と
其外石とて幾千万とて
殺とてすり、而もさあ
さかなさ人乃て斗
めて、いゝある邪鬼の世を
忽とて常れん、そとてす
御廟所、ゆいしく、子
傷あり、の事とて、後れ山
もん、移ん、系有とて、やこの

山、さあ、山、毎年七月
十四日、山掃除あり、は、ハ
壇上へ登る事、うあ、す
山、さ、燃ろ、堂あり、内
わ、か、と、ろ、ろ、殺とて、す
あり、山、燃、の、料、常、とて、ハ
米、百、廿、石、米、燃、ハ、米、六、十、石、之
何、事、も、未、代、ま、て、又、この
燃、箱、堂、ゆ、て、結、縁、れ、め
に、と、て、弘、法、大、師、の、山、り
な、さ、れ、て、山、瑞、教、新、け、い、の
人、い、づ、く、な、り、又、八、角、乃
骨、堂、あり、内、ハ、ふ、く、井、戸
乃、と、て、山、て、さ、い、う、く
骨、髪、と、な、り、入、る、と、て、乃

弘法大師乃以誓願あり

は文より日

結舎那之秘印秘光身
雖留身於樹下意者有
遺迹不關日々之影
至有信者其身授事不
信者可恨先業但我山
所送置亡者之舍利我
每時以三密加持力先
送安親實剎當來我山
可為慈尊說法之聽衆
菩薩之
御記文 宝性院之理

ありといふ又いふこれ
ありといふ秘志乃死に乃
位牌とありて日牌ハ
百部指の月牌ハ拾部
と人の代よりいふまで
あり又山乃内は千本
とくなく一本ありて
ありといふこれいふあり
いふ山乃谷いふあり
弘仁七年建立ありて金
剛峯寺と名付真言乃
法也又山女人禁断山
なりといふ弘法乃御母の
ありたまふと五腹あり

この所は有る石城跡あり
まゝの如く紀州にはありて
跡は石よりなり則ち紀州は
大門まで京口は下馬所
女人は殿あり是より
さへんけいよりあり京口は
不動坂といふ坂の女人堂
ありておどろきなり
坂四十八まがりなり難
はより付て後うされ谷川
あり

○おみ屋は 一里

は村泊あり

○志いでは 一里

は村泊ありむら出川あり

○くま山は 一里

は村入口よりまゝの如く

井ありは村泊あり

○慈母院 同四 本里

母所萬年山慈母院と号す

本堂南向弥勒あり

よりなりおれ堂は寶

えのあり

一弘法大師乃母の御影

一弘法大師鏡乃御影

一神將姫乃曼陀羅

一鈴（そのとく）の大師母の齒といふ

一佛（そのとく）の大師母の齒といふ

一独（そのとく）の大師母の齒といふ

是乃宝相石なり用帳

あり本堂西二重れ塔あり
あり是が榎尾の八名倉
村大畠村多田村あり
中飯振の飯振村あり
は村泊り入口あり
○廣野に
○短野に
は村泊りあり
泉と伝あり

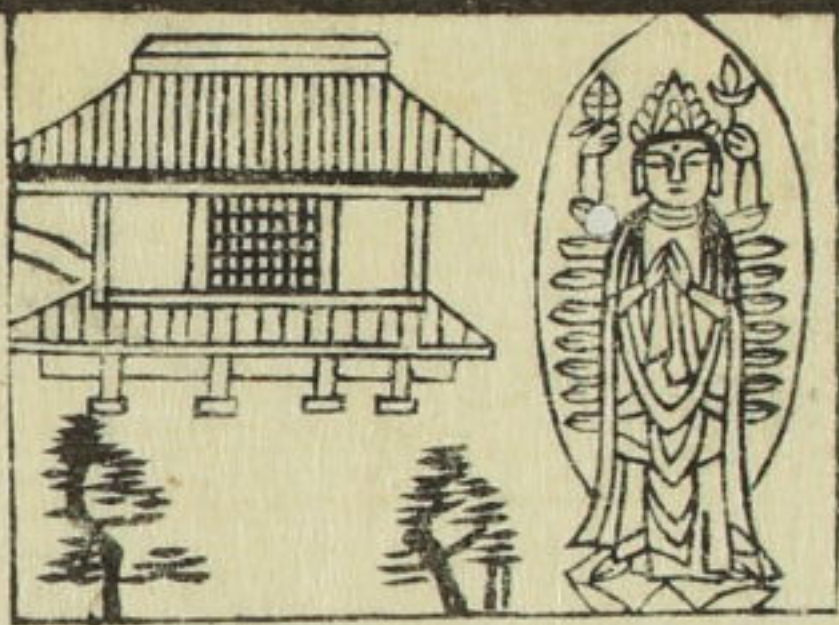
道あり上巻之終

西國三十三所
道土の心在中巻

○光乃滝
い下瀬山光あり
あり堂不動王
と又路あり
ありい下泊り
○榎尾は同國一里

四番
本堂弥勒文殊 千手
觀音弘法大師一が三
乃の佛の堂辰已向七
四面秀光の建立

は上人地蔵の化身とい
は所るハケるなり御う
七月廿一日は松本坊二宿
して外は主家なり



こやまじやいなら
ねふとけいけ
すねのあまう
しふぞいさう

本堂前は五社大の神
あり後より大師の西堂
あり同所は茶師堂
あり西乃下中室に
ありとて寺なり大師乃
は新築なり一あり

はつこの尾るゆわて
弘法大師の年ルヤ
御出家なり西名教
海と云水なり事と
加持大師密印し
是と能く精神爽利
ありゆくは恵水と名
づるなり

○横山は 八丁
は村中より川あり
○又横山は 一里
は村あり
○池田は 一里

い村泊り一樹中より川あり
いる上野原とてまが野

○山田に 一里半

い村泊りいる大なる村
銀音の村とていへるは

○塚に 一里半

○住に 一里半

いすきりへ四所之に社あり

向あり塔とていへる

わり松原とていへる

浦毎年三月三日に堤を

人くりて詣とていへる

見發ありとていへる

八月廿八日に河内極とて

い乃松女まうて早敷と

あきりこありい而伯

い

○天王寺。大坂上所の

ありけり用明天王二年

聖徳太子建立の太子日

本より佛とていへる

あり海守屋大匠法

ありて我海太子白

あて多國持とていへる

田天王とていへる

ありひとていへる

勝ありて四天王と

いたまうんとていへる

を成りて佛とて

ありけ国と云ふれり
 け時いふは建ちたりあり
 天王と号たりい天王寺
 東西八丁南にお下地本堂
 聖徳太子十六文れ西祭
 又四十九文れ西祭と云ふは
 金印を龜井の水と云ふ
 乃ららるる石より水
 もさづらるるなり西祭は
 石乃常々基あり是也
 毎年二月廿二日兒乃常
 わり八重れ塔と云ふ堂
 較多し一いふふ七ふ思義
 と云ふ高のふしこあり
 一宝塔あり乃龜井圖字

檀金二千ありて鑄されハ
 未代より久しきなり
 二龜井の水ハ天竺を發地
 りり就文城へ報れ種を
 け又就文よりいふり
 あれハありてありてあり
 三金堂れありてありてあり
 ざありてありてありてあり
 ありてありてありてあり
 七ありてありてありてあり
 四ありてありてありてあり
 乃應は十丈の大蛇と云ふ
 けありてありてありてあり
 ありてありてありてあり

八金堂門陳れ柱亦極
と天竺より八大龍王よ
ひつてて佛くさるる
末代よりさきと極る
とあり

六石の多井ハ西門ふて極
樂浄土乃東門の中へ
ありあり又二王と南
大門よりさき一幸ハ
聖徳太子末代よ至る
補陀山より通ひあり
なり世二天ハ金剛像王
天竺より来りて
わかし七像王と造り
たよりあるに王
うへふれはるる

七金堂寶塔よりた
大木生のありあり
ありありわくわく
りきたり天人毎日あま
らりて石上あり法會
との供養とあり
ありありあり

平野に一里

大坂に一里

小山に一里

は所々所々所々

葛井寺 河内 六丁

五番

本堂千手観音春日社
地蔵堂八幡堂
基の石作之堂八幡堂
平地之東は鐘樓といふ
乃平城天皇の弟二阿保
親王は死す



あるよりたのしみ
かけろどき
花乃うそり
ひささのくも
ふさ八草ふ

いあご野中とて町を

言田

は星

い所町ありはりい所
八幡乃まゝ宮は頼朝乃
以太乃ありい八幡の
小山ありい峯乃の廟所
わりい町出口は川あり
より金剛山といふ

野谷

は星

い所町ありはり
あすは

は星

太子村

は星

い村ありい所は聖徳太子
乃の廟ありあつた堂
わりい三教音路至

河、太子十太女乃西祭堂
門は二重なるれ竹入りて、
二重れ塔あり

山田 八丁

は所町あり、池あり、是より
ふく坂之端は忠屋あり
内は石れ塔あり、内はた乃
家つゝよと云れあり、と切
付てあり、又い岩屋の石の
前よふら岩屋と曰れ、前
ふら井土あり、水縁す、時
の下よふ雄れ茶師なり
と云、と役所者、此地なり
は所なる石光ありと云、
あり、堂東向なる彌勒

かり、内は役行者の自他
乃の釈中將姫十七々自他
所なり、あり、ふら井
あり、又東麻れ曼陀羅乃
系くけさうと云、是中將姫
系所係は様よわづらふと
け所、あり、石れ塔あり

當麻 大和國一里

本堂南向なる淨土曼陀羅
なり、百文あり、開帳同堂
乃内はなる、中將姫十九々
れ本像あり、い所、連池
あり、内庭に松あり、根あり
うす、門なる、落葉石と
て石よふら葉れあり

あり其外堂なり
奥院よりなる阿弥院
熱心なり又法然

上人自他に西教あり

持教麻生曼陀羅ハ廢

帝天皇乃ハ横佩

右大臣豊成身女中將

姫浄土三部經の中觀

聖量壽經ハ一部始終

と運れ來たりて給像よ

なりありありありあり

い拙ハひしよ竹之中おひめ

光仁天皇宝龜六年三月

十四日廿九又ありありあり

りいふ麻所ありありあり

あり今井ハのりハる尾

とて町をゆるし十五

丁よりふ小振村とあり

熱心傳教れ生るあり

今井ハ 小里

は所町ありゆるしあり

熱心なりとて村あり

あんせうハ 小里

は所より町ありゆるしあり

新所村よりとて村あり

とて町ありとて町あり

二二ハ 一里

は所より町ありとて乃

方より城と構あり金

剛山ありはとてあり

うりりなりなり又いこせう
村と車村とれる小茅束村
と云ふは役行者のうら
金剛壽院又ハ名祥寺
と云ふ本堂は佐々木又
右の方より多人のうら
三十二支れ木像あり世
所は乃ん生ふと云

○車は 一里

は所所ありゆり一里
村ありゆり

○土佐は 十里

は所ゆり一里なりげと
とゆりゆり松平ゆり
武力八子石大守二三里

方へゆりゆりゆりゆり
土佐所ゆり土佐ゆり

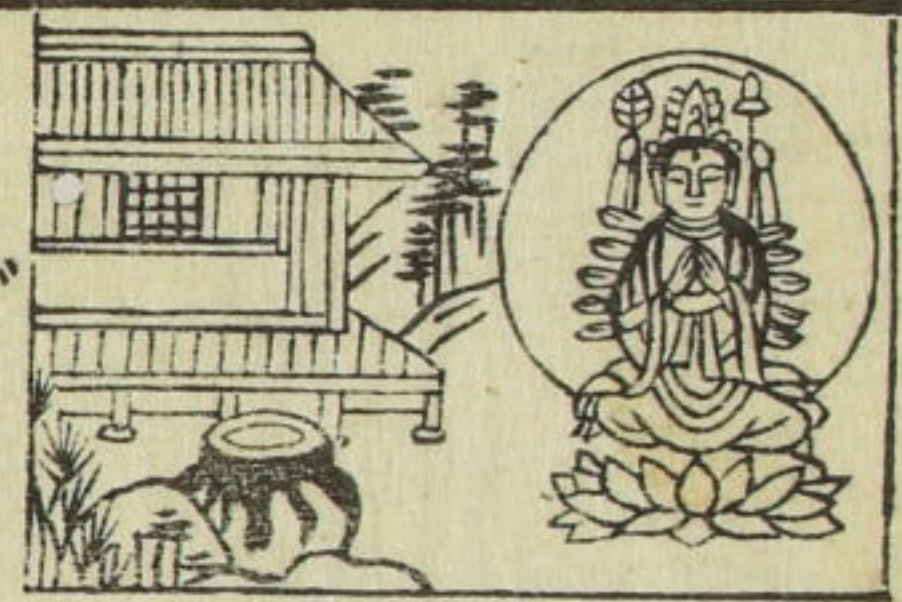
ゆり

○土佐は 同玉 十里

六番

本堂南向八角八面
礼佛堂に千手観音
佛ハ道紀上人ゆりの
ゆりゆりゆりゆり
湊湊天皇れゆり
服立 春日ゆり 天照大神
最上三重塔ハ大日如来
円最上三層ゆりゆり
入丁ゆりゆり山乃
ゆりゆり百所ゆりの石像

うり



うみそふみ
そくふつ不坂の
みまれのさごと
海とみらん
日
もふふふふ

いつむはるふはあり
うりいる坂あり
ずされ能とて庵あり

○まろに 一里

は村泊あり家ふ妙示の
とくまありかきる茶師
あまんの山地賜立

正観音 太子の山地
地蔵 無常の山地

○ひねろに 十里

は村泊あり山に愛深
明玉あり春日れ山堂
七る四面南に山寺家

聖徳太子れ十六丈の木像
あり山に下りて山く
きや山越て山町の町

山く山所より山堂と
うり山みれ山サマ坂
下り山あり

○右野 山孫れ山井と一里四丁
本堂七間四面南向藏王
現三昧之本山八千平観音

釈迦彌勒あり又天神
のやうあり観音堂

樓又大塔の位よりあり樓門
よ 熱大里あり二王門
ありえんけいんけいの位
一義經の具足一忠信なり
一能ておれり一忠信なり
興院へおれり多きなり
下ありいりるなり水邊を
さわりいりるなり親音ハ
りいりるなり守佛なり所
義なりこの位なり松又
約の位なり毎々刀なり
くく岩なり鉄釘なり
てありいりるなり
ねけれ塔なり
三重あり有りが火風
あり火風あり今一重あり
門ハ大日如來也此所なり
興院なり松又いりる
西川乃松又いりる神の文
たさありえんけいんけい
義經の位なり山なり
谷なり忠信なり
ありいりるなり多きなり
おれりいりるなり松又
多きなり山なり松又
町ありいりるなり松又
と多きなりいりるなり
いりるなり井あり上り村
のありいりるなり松又

くし町ありは上市に
入口ふ後一ありんる

○上市に 三十丁

は所より町あり

○ありに 十丁

は所よりありありはる
ゆらた津とくあ坂ありは坂
砂ありとくあり一たげ
は堂あり

○総れに 一里十丁

は村ありありはるあり

森あり

○冬に 一里

は村あり

○冬に 十丁

は社大藏冠也津及にる十
三ありはありありはる
乃あり作臺とくあり
天台大師天岳よりあり
ありあり十三臺に塔
ありあり堂あり社
三千石とありあり
臺ありありありは
ありありありありあり
村ありありあり

○愚寺に 同國一里十丁

七番

本堂三万四面南あり
如意輪觀音の丈六尺の土仏
あり同堂内に弘法大師の像

文殊の寺に堂あり東に
ろくろの門を以てし



けさるるに
るのふれこけ
さるるる乃
日
ふるるる

○あまのこは 十丁

は所町を以てし

○安曇は 十丁

は所町を以てし文殊堂を
大地なり

○振井は 中里

は所町を以てし

志多ん村とて村を以てし
ろくろの門を以てし

は所町を以てし

○黒崎は 一里

は所町を以てし

○谷は 同國 中里

八番

本堂南向七尺四面二丈八尺十
一面観音之脇立春日明神
天照太神の御座道上人延
四年二月十三日供出あり
導師ハ行基の御子ハ佛
令一投め七日開帳あり
西ノ塔ハ五智如来あり
廻廊九十九間あり

妙筒のな一村あり有つ〇を
とらひるひつるなり

○柳本に 一里

いふらふとぬり

○丹波市に 一里

は所より所伯より一里あり

法隆寺の道あり

○坂川に 一里ナ丁

は所より所あり伯あり

○法隆寺に 一里三丁

は所伯より伽藍聖徳太子

の建立に本堂釈迦立重れ

塔有又西れるるに不茶師

堂日本三神孝佛と八

角れ堂の門に太刀鏡種に

捧ゆあり又東に太子四十

少れに新堂の門に一代改将

好む事あり又東に南無佛

乃舍利堂より山舍利の

釋尊にたれ御眼く

以延生の時にたれ裏に

多ひ四年二月十五日

東方より向く南を佛と唱へ

て開くといひ山舍利の

と毎日日中午に刻よ

綿れ袋七重あけてお祈る

乃箱にあり玉塔を取出

るをよりは玉塔に

へてお祈るなりといふ

舍利堂にたれ地柳といふ

の百サ戸とありありありなり
多れサかこころなり

龍田 十丁

此所田を治り一社三社
あり南向く東よりあり
前より井の額正位施田
大の神降殿を昔は所
雷神降てより事なり
どしと童子とあり農
夫ありて子とありあり
毛早魁なりなりなり
改竊父が田は六タキなり
後より童子龍となり天
のありは田龍田と云ふ
なりて下れ名は又川を
村の所流すなりなり
一里ありて又田なりなり
ころろは観音又地蔵堂なり
天衣天皇此に建立佛を
春日此に祀る奥院天衣天
皇此に祀り本堂なり
ありなりは弘明堂海面上
人の所祀なりなりなり
此にあり大友乃王子と天
衣天皇此の所祀なり
此に建立ありなりなり
矢田はは小泉流す所
きやなり龍田ありなり
と龍なりなりなり

小泉 一里

は所より所より一里
作切正取一万石石寺

郡山 一里

は所より所より一里
本多下野ちり十二万石は
ろくぜう村大を村とくさ
町あり

奈良 一里半

は所ハ元明天皇より光
仁天皇より七代代都へ

いふくれ都なれんいま
綴昌く西司代あり奈

春日四所の神
奥福ふれ門

南園堂

九番

本寺不空罽索観音

新主遷滅天皇春日神
壇とつさふ八角れり

きやうけりの堂いふん
寺宮れ人のがら

壇の下平地ありれり
田前より名木榊子あり



まじりかんきん
どうにかめれり
みうれり
けり
うすき
は
なるみすめ

いんり神也姫^ねり 二れふや

二、五ノ代の氣文ハ

大鳥井

いふよりほかにあり
わたくしは、おれよりたへ
おれより答へてゐる

以族所

是より春日野へ

以四所大昭祥八寶一

武雷令才二六片主令才

三天兒登根冷才四八娘

大神なり神護京雲元

年六月廿一日

鳴り
夜
雷
令
白
棄
よ

のりたまひ排はらの校がうと戦いくさと

一 倭勢名強の部

ありしす中陸北連時
未^{ひてゆ}だ^りと^と供^りなり日

二年正月九日三筆山

大宅多存
今ハト

の香叙うらみうす
天児

河内國皮云

山陰縣志

九

大德之公

[illegible]

所七中

酒は口を家下二大瓶

東大

大佛計石佛堂石座像記

新造之堂八燒矣之淨佛

まろろふ山はとく近ふらん
ゆりぬきみ丈三尺八寸蓮花
洞なる一丈土蓮化なる八寸蓮
げに浄土曼陀羅に繪らるる十
六丈六尺他南向く東西六十尺
南也二万ありと云

大佛草創由來

推古天皇の八丈八尺殿が又城大なる
又八咫國分る又金光の天王護
るなりしに建立さへ王四十五代聖
武天皇行基のころを勧をいふ
ゆゑ天平十七年八月事始
るなり御子孝謙天皇に御宇
天平勝宝四年に成就す七年
に同四月九日開眼供養ありと云

より四百廿九年よりして終る
天皇に仁時御宇四年十二月
廿八日地震平重衡のれ無災
あり加藤忠光の終るなり
後醍醐天皇の諸國に勸をいふ
永二年四月十九日大宋國に陳
和卿とて初て仏をいふ
十四ヶ年及び世余日れる
佛をいふる建久元年七月
廿七日大佛殿の母をいふ
と二本塔をいふなり同十月上
棟すなり造る成就して同
六年二月十二日供養外護八右
大佛の朝をいふなり三百七
十二年後正親町院に御宇

永禄十年十月十日夜
松永強四三好日守我

大佛殿より火出り焼失

と云ふなり今貞享三年

より百廿年成る迄の

細をれ沙門院松院の

建立れ大願あり

一燈樓（松永寺三丈三寸半の徑）

二月堂（毎年二月朔日より三昧堂まで法事ありて半王也）

一若狭井（井行を忽ち後の水）

三月堂（親喜）

四月堂（いづれより此井水）

念佛堂（地蔵）

一真言（弘法）

一宝藏

一多摩山（一むし）

一八幡宮（所）

一茶室

一茶室

一茶室

一茶室

一茶室

一茶室

一茶室

一茶室

一茶室

一茶室

一茶室

一茶室

一里

1

二聖

!

山城國二里寺

觀年中

子
改

山道元禪師れ造まてふ
いふりといふ説流言して業
あり又川、龍石といふ蛇の形
の岩ありは寺のゆるる左右
といふ岩壁の上やまうふ
又橋乃并ありて門あり本
堂南向く佛ハ三尊ありま
興聖寶禪寺と願あり
あり龍虎れ形の造本有
一観音ハ三尊といふ張勢の佛
一釋迦

一山山釋迦

いふる二尊といふ山道元禪師の

一淨室

本堂南にありて面三丁

山れといふ千手觀音 形といふ
くくくといふ人なりけ所
町ありといふ

十番



あるまじき月夜
いじりといふけり
字活のりといふ
まじき
九百九十九

一黄蘗

は

七下

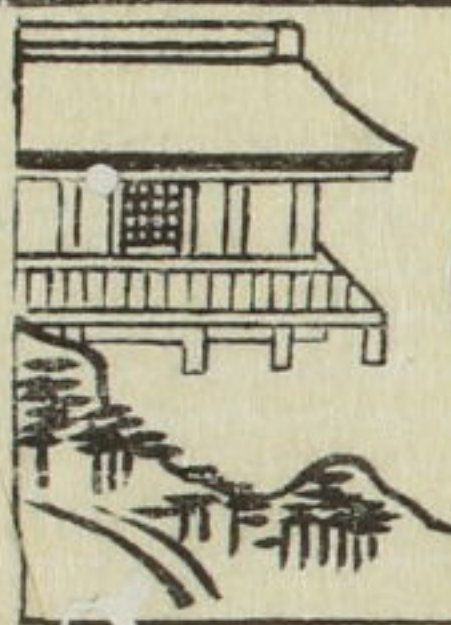
は寺ハといふく山乃福といふ
山ハ隱元禪師 唐僧といふ
宗旨ハ禪之義應子年
建立ま本堂釋迦如來
といふ阿羅といふ堂内乃

めがりよ十六羅漢あり
は佛塔唐木あり唐の仏
師作なり岡山堂八門と
入てなりよここ外堂教
る一門あり地を廻轉多
くは石造りなり百姓あり
泊る自由なり是より醍醐
より山坂なり

はるよすこ山と云あり
岩窟と云地あり是より
内室されん人なり池
よりよりよりより
はすこ山女人あり十一番
れなり親音堂あり
醍醐は山城 一里す

十一番

本堂七石四面南向准低
親音正寶僧正所依之
自八延喜寺帝へは山女
人禁制と



ざやんももも
さすくももも
准低堂も
さよりん
日
はるすみもも

はるすみもも
はるすみもも
はるすみもも
はるすみもも

岩間寺の 近留一里す

十二番

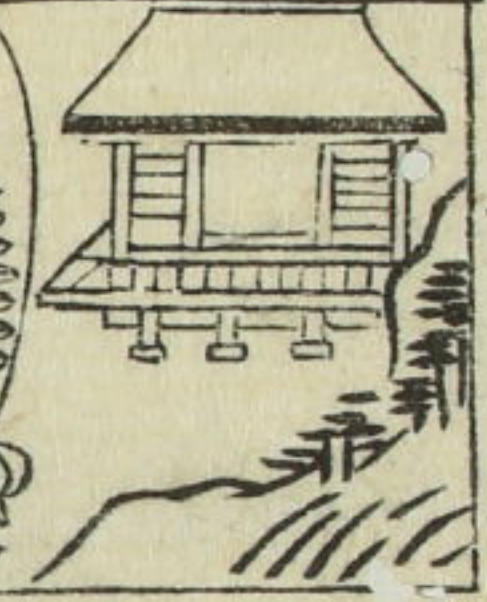
千年観音 三つあり

三つあり 吉祥天女堂三

つに面あり 三素流大師

の建まゝ 東一徳樹あり

け寺ハ山乃よりあり



十三番

石山に同玉 又十丁

如意輪観音 三つあり

秘金剛 藏王堂七万四

めん南白は石ニ業式部

中 新あり 二重乃なり

石乃堂あり 庭に大石

あり 又あり 白糸大明神

乃の腰に石を門が所



勢多に 十丁

け所町あり 湧き水あり

乃社就女乃社とて入

二つあり

○膳所は 十丁

けられ破るに城と

本多隠岐守ありて石に

石一は万大はれ入口に

本多ありれ墓あり

○大津 十丁

○三井寺 十五丁

如意輪と云ん人なりハ

わいの上人といふハカ

山の上あり 東向之木蓮

十四番

いりや波あり

月三井あり

いりあり

いりあり



三井の園城と云ん本

堂南向強勒井なり 堂ハ

小月十四日四面之は西秀

能よりありてあり

鐘あり又あり升あり

井ありと云ん三井と云

又本堂と云んあり

いりハ女人禁断の山あり

毎年七月十五日ハ女人禁

断ありといふ此園山ハ

智證大師あり

○志賀は 十五丁

は村主町と云んいりハ

唐橋のありてあり

神といふあり

坂本 二丁

此所所わり泊る山王社一社に塔あり其
か堂敷多し八王子八社
比叡山乃東に比叡山

比叡山 四十丁

根本中堂なる茶師堂

東向十六房四面廻廊

講堂 大日堂南向六房四面

東向六房

戒壇堂 釈迦堂南向五房四面

此におりて傳教大師

乃堂あり傳教大師堂

此に教堂あり

黒谷 十丁

浄名山青龍寺あり定

乃池法然上人四十三

乃池あり

八丁

乃池あり

大原 一里

此村泊あり

同各代時建

證授乃阿弥改あり

急ぬ板とくわざりあり

てあけあし

此先より改あり

乃池あり

鞍馬 一里

卷中

陽子之受

皇子

堂九月八日つゝ向く堂あり
 二堂の落あり、若御堂、又堂
 堂親音堂、八、よ、大、神、乃
 や、ろ、と、い、堂、門、宝、也、と
 一大、偽、正、脇、立、役、者、
 一、義、理、ふんひの 具、く、甲、ひ、を、し、こ
 一、太、刀、ろ、ろ、杯、の、奉、四、三、寸
 一、太、刀、舟、渡、の、大、刀、二、尺、三、寸
 一、揚、技、うきぎ 魚、ん、り、の、石、を、な、り、
 是、し、一、人、十、二、又、少、く、用、揚、あり
 本、堂、ろ、ろ、車、坂、な、り、げ、か、し、
 二、一、ろ、ろ、ひ、な、り、げ、半、し、ち、う、ち
 せ、ろ、ろ、石、あり、是、ろ、ろ
 ち、ろ、坂、不、動、坂、と、い、ふ、ど、ろ

堂のり 傳教の山 他いはい
傳のい合く 室小く 正乃
えなり いふより 正乃
七より 千八 室小く 正乃
無法なり いふより 正乃
破石 磐木 入石 正乃
ふより 正乃 正乃 正乃
なり 正乃 正乃 正乃
いふより 山小 太力 正乃
あふより いふより 正乃
松尾山 金剛 壽命院と
平す いふより 人皇 八十代
桓武天皇 乙未 年 延暦
十五年 丙子 年 建武
いふより 正乃 正乃 正乃
むより 正乃 妙なり

いふより 正乃

わい 正乃 正乃 正乃

あふより 正乃 正乃

いふより 正乃 正乃

貴布祿 正乃 正乃

本社 南向 正乃 正乃

又ふ 勤堂 あり 正乃 南向

は 休龍 正乃 故 雨 正乃 又ハ

勝 正乃 正乃 正乃 正乃

市原 正乃 一里

は 村伯 あり 正乃 所 補院 洛寺

とく 正乃 正乃 正乃 何 弥 院

あふ 正乃 正乃 正乃 正乃 又 置

女 將乃 石塔 あり

○賀茂

一里

明神乃以社南向其外社

多一御社乃前二所一說

川流をい社乃に

かゝる川ありては不ふさ

○ 田
知
善
薩
也
以
四
下

は他廣さ四五丁ほどい死

小東ハ小山南ハ正ニナ

町あり泊あり

乳 十

文造上於辰日前亡

西へ渡川同あ所あり

禁不裏
十三下

十三

華堂

十九番

千手觀音

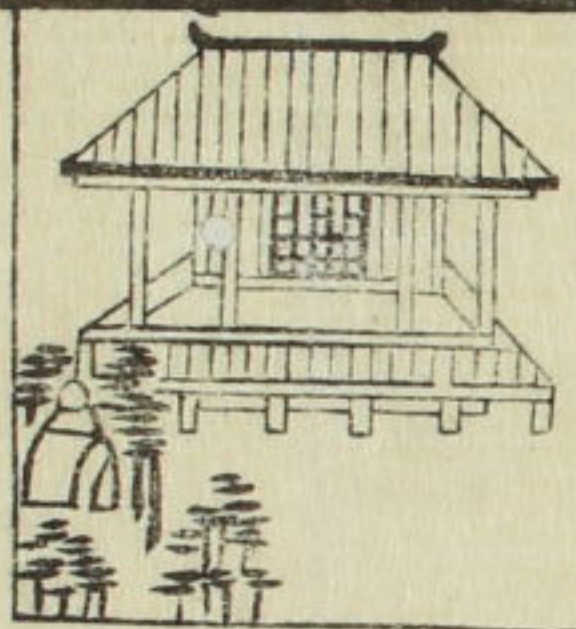
行圓上人此以建玄之行氣也

號次開山行圖上人法僧

革衣冠是子孫之華



花は見て今れ
のぞみもかううれ
ふうれちうさも



日
七
十
四
日

檀言子奇

いふれあふふ人王卅九代 建武

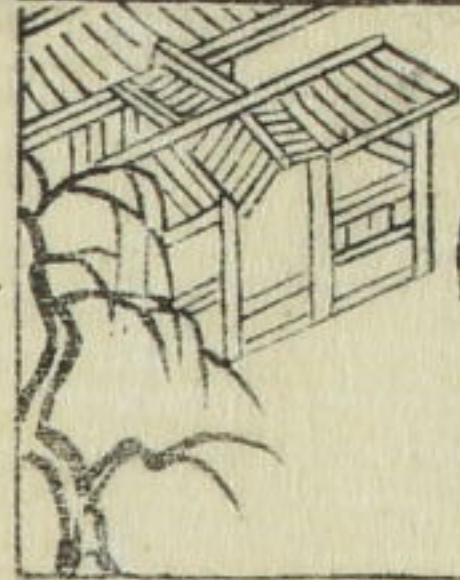
六角堂

十八畝

本寺如意輪觀音

脇立 正觀音
文殊

一寸八分佛之形ハ
西太夫之堂に向へる



我々もよくわかれ
たれがどきどき
かきといたる
日 かりけ
子百八十八年

東本願寺

此寺は岡山親鸞上人所
自化乃像あり 堂ハ東
西二十七尺二尺七寸南北三
十七尺二尺八寸あり

西本願寺

此寺大寺也岡山親鸞上人
人れ自化乃像あり
あゝゝ 大通寺
本堂あり

東寺

弘法大師堂あり

東福寺

此寺は通天の
あり日あり

泉誦寺

此堂は多
帝王乃
今能
十五番

十一面くろんせん 賜立

ひやうん 弘法大師



ひうようたつと
あふぬいまるの
けくけのちうい
あつたなり
日
かるてふふ

大佛

堂西面く南鐘あり 加祿
大加半く月方三十三

堂東向あり なる十一
観音く佛のあふ八
ありくろんせん じの
と分三十三百三

みか観音ありけ堂うしろの

方矢教乃所く授ふたるさ

法めくけくくくくく

石塔あり是八大朝鮮國

と付補て耳と繋ていつふ

はくあふくくく

六波羅 京

十七番

十二面観音長八尺堂五間に面
ある空也上人あり



おきくくくくく
つみまよふあり
さくさくさく
ある身あきけ
日
八百二ふふ

○祇園

本社牛頭天王也南向之
としか堂敷あり

○清水寺

十六番

千手観音とて立毗沙門
地蔵あり堂八七万四
南じふ前ハ常盤臺
け下ニ音羽ハ龍とて本
寺修ミ奥院ハ地蔵持現社あり



松風やあけらる
またの清水哉
ひとづゝ海と
すゞみ
日
九百五十八のふみ

○天山

い所ニ 齒佛乃如来あり
岡山國河上人也

○建仁寺

い寺ふ 雲ぬいともあり
とて石末よりすり人
よが成るつらねん
とてこれあやう
とて人まゝもつじ
とて造るもやう成
とてせしあり
とてなりとも
とてあり
とてあり

法然上人よりあるなり

○南禅寺

親庵國師よりあるなり
五山の内より

○ふくろうん堂

本堂ありこれよりあるなり
えうりよりあるなり
めく因帳

○黒谷

い所ハ法然上人の因基
入本堂なり移る自他乃
像之又親庵より自他乃
像よりあり又黒谷の河原
額ありよりあるなり
○吉田

い社春日明神なり其
不社政多し世所ハ

一條院永延元年焼て
官幣

○大徳寺

い寺あり
い寺ハ一休和尚よりあるなり

○真木尾

比丘修り寺あり

○小野

天神乃神社あり又塔
なりあるなり

○妙心寺

本堂南向く釈迦よりあるなり
ありあるなり又あるなり

和名を勢四本あり 岡山
惠立入 大灯國師の才を

○御室

け寺ハ仁和寺と号せり本
堂ハ所改しと云 觀音
堂至堂南向塔あり 檀
栴堂至仁王門あり
寛平法皇れ山庵室あり
故にむろれ所と云
○暖藏
は所と云町之泊り
釈迦堂ハ一と云ハ東に
三と云れハ一と云堂ハ一と云
乃と云り乃右不付
二と云院

山寺門ハ小倉山本堂ハ
二と云院と額あり 山と云

倉山と云

本堂釋迦 阿弥院ハ二と云
春日れ山ハ又法新ハ三川の
山教堂あり 其外堂あり
宝物ハ

- 一法新ハの山紫沙衣
- 一普導の山紫沙衣
- 一文殊乃山紫沙衣
- 一法衣乃山一板起請
- 一同ハ 云々

右ハ云ハ二と云院あり

妓王妓女佛の事

ハ云々云々云々云々云々云々

由來ハバシラキとギキと
しらと云白拍子娘あり
姉の奴王ハ平家大政入道の
てうわひの女之故妹乃き
と世の人乃りてなり
其故ハ賀國佛
とてあひのしの上
来りり入道奴王と云
西せんえ習うハ奴王つ
の障子よ

前出くもあつて
ソレウ秋とあま
とあつてあお母のし
妹の奴女と三人あつて
海とくけりあつて
是はあつて奴王のし
しあつてあつて
出奴王乃房奴王の
尼乃婆とあつて
一菩提の乃よ入

西芳寺

はるよ夢窓國師乃つて
あつて築山あり

臨川

天龍寺

都門と云る名ハバシラキ
垂れ尾と云ふ

法輪寺

はるい嵐山の南と云ふ嵐
と云ふ

大升川

業平れ奇

後撰大升川うらふふれうらふ

小倉山を名のりぬ

松乃尾

は所の神乃社ありてあり

愛宕山

本堂地藏

不動明王
眺汝門天

くまのいりハ石檀ありて登る

多井のわねの奥院太郎坊

は山丹波の松也丹波の宮太

るのりなきいありて山、京

三里入又浅瀬あり、常

五十二のいありて泊あり是

より堂ありてありてあり

あり、あのあるて、大沙門

慶俊天應年中ふ初る開

うずすまふ業師

は不堂敷多し、を所を泊り

近京津國地持寺より十三里

半のり道泊も、あり

京より

初り、あり

一里半

は所在所泊り、い、川

あり、あり、あり、あり

小塩は

一里半

は村泊あり、あり、あり

吉峯は

半里

武十番

山城

本堂千手観音、あり

びくさんおきれん音
此寺弘法師の四化
堂六万回面東向む
仁王門の鐘撞又二重乃
塔有山乃上



此寺とすれん
いふあれれ
うみなり
はるし
おきれん
日音字九年

○それなり一里半
は村泊ありいり山と道
あり家なり又山城と
丹波乃境也

西國三十三所

道志海屋下巻

○森は丹波一里

は村泊ありいり山と道
龜山通くしゆ河城

久米出雲守殿八万石いり

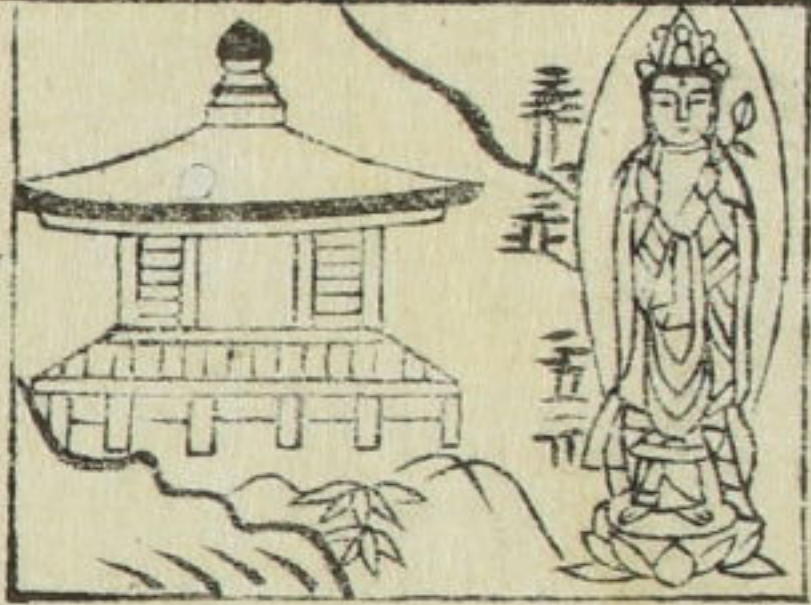
山治家なり

○穴太寺は地一里半

二十番

本堂より厨子よりあり東
正観音中業師に
正観音とんい佛壇
なり山と三入んせいの作
堂入り四面南面仁王門
西塔東塔ありなり

泊あり



かばきふじま
あつ方のあふ
あふふふふふ
とくふ一ふ
日ふふふふ

さけに 一里

は村泊ありはる山坂又谷所
と敷きと流る道あり
すくくくくくくくく
あり泊あり

ふふふに 三里

は村を所泊ありはる
山坂あり

あいに 三里

は村泊ありはる山坂又谷所
と敷きと流る道あり
すくくくくくくくく
あり泊あり

○惣持寺 杉は國 一里
いふ平地に

二十二番

本堂十一面観音堂南に
小石ある四面仁王門あり
又寺あり東に堂三
後ふふふふふふ
中納言山陰々建まれ所
は村泊ありはる山坂又谷所



おきくもたる
しん想持寺の
かきけらうい
たのすめま
八百五十九年
日

郡山に

三十丁

は村立町あり出口より

勝尾寺に

老集寺

二十三番

不動

本堂千手観音

毗沙門

わさる太子れい作之南むい

あゆろ宝苑庚申堂

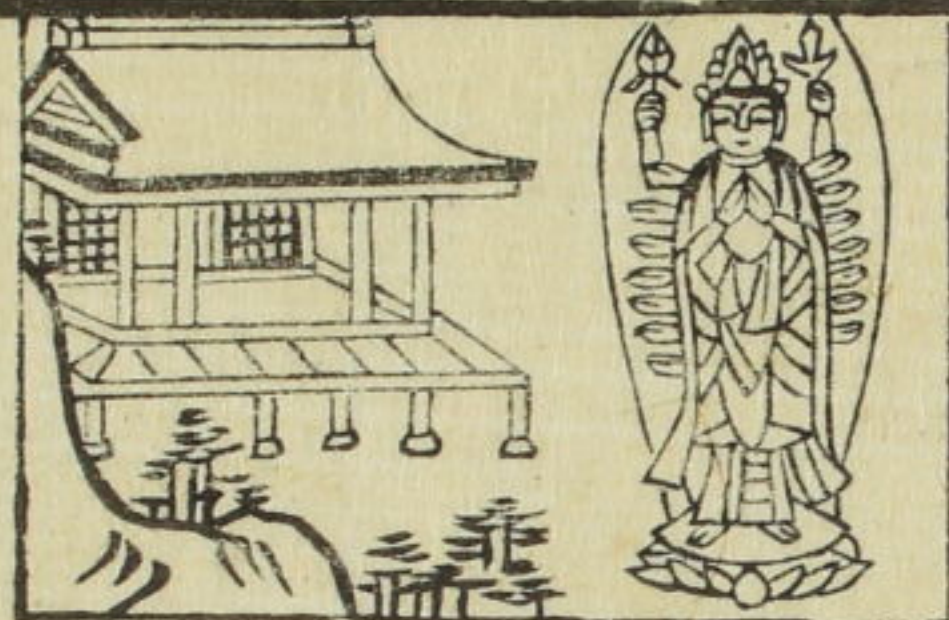
弘法大師堂毎六天五百日

念佛寺あり門四天五

は門のさうり中やま

さきありありはる家

より坂



おきくもたる
いのり勝尾る
かきけらうい
たのすめま
八百五十九年
日

は勝尾るゆあり

おきくもたる一里

は村泊自由ありはる

平尾じり山銀

あり

池田に

一里

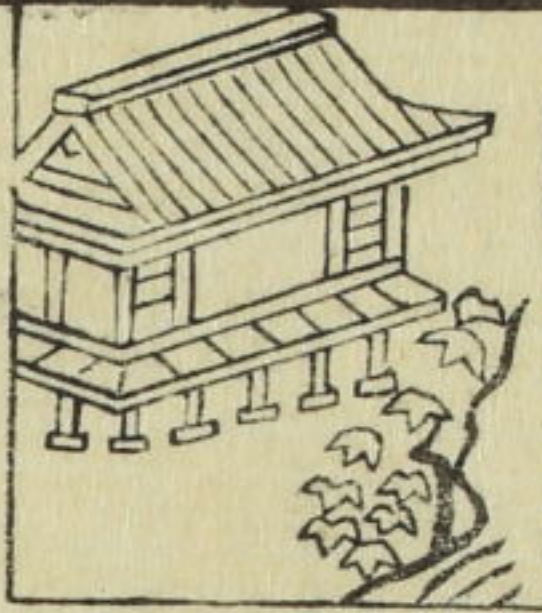
はあり町ありゆ

出は川あり水如き
ありありて中山
川ありは川を初使
川しそ

中山寺に 日 一里半

古口番

本堂千手観音 聖座
太子此の堂南向あり



聖とすれ里
寺へありは乃
世のそえ
ふ百ふふふ

本堂東に勸堂太子此
あり太子此の堂あり

は太子堂乃に備那書
山乃同山姓宮上人の
人之地獄よりあす
とれ彌魔王よりき
えんまふれ御判石乃
箱に納めてありは判乃
子細ハ下に記す也又本
堂前より釈迦堂十王堂
二王門ありは所泊あり
出口よりは川ありて小
川ありは中山寺より
乃すぢり名所ありは中
山あり能るひて迎ふ
名所ハ

多回

は所、多田の海仲れ社

頼義頼朝頼信

頼光、義家社あり

おごん又ハ海仲の石

堂あり、百又少く同格

あり又釈迦菩薩堂

は社の後、海仲の石塔

ありは奥、四天王乃塚

あり、又石、災難を

有馬山

世は云ふるは

は所ハ湯、出の石

東西、建より南ハ一の

ハ二の湯と云ふりあり

又薬師堂と云ふるは

常山温泉寺といふる

山乃山、愛宕社あり

有馬、この所ハ門は軒ハ湯

なり、又定りて、一

大ゆか、ゆかとして、女二人

あて、四十人、女湯

交配する、湯、七日の

男と一、女と一、根子

こ、湯ハ、根子、山

煙、あり

重、白、あり

は、又、名

一、古山、あり

一、穀の、地獄谷

一、猪名の野

後拾遺

大貳三位

三同山いふれ條京風吹く

そぞろく人成るれやさる

右より山中山ありてなる

とくちたづみふれしゆ

る

○山む海の中さるる十丁

はふらふ所也泊り十一終

りて向川とく谷川ありて

二川とく谷川ありて

小滝ありぬのみなる二三テ

村あり泊りはるるる

のちよ大坂尼ヶ崎城見

ゆり又右よりわづく山又八向

山とく山んゆり

○西乃文

二里十丁

内社南向りり

はまハ伴井諾寺代所子蛭

児といひなるは不海をまつ

さやうり倉庫へありはる

谷川系二つあり

○住

二里十丁

は所町を泊りいす

村とく底とれり右乃方よ

後名所あり

摩耶山

は山乃峰よ観音堂あり

是より山とく浦さる

布乃嶺

は麓山乃とくさづみ

南、わづれうのそら
——うらうら

金葉集 漢人——

天れ川を流るるあはれ
空よりあふる川

生田

いふ生田の神乃やうら
村あり

後撰集

あふ生田の浦りまうら
いふあふをわづれう

いふあふあり

信長等

わづれうあふをわづれう
いふあふをわづれう

楠の墓

楠の墓乃軍は太勢と付
ちう味方より七十三騎

いふあふは叶うとて会
ぬ楠正季はと六十余人は
を家めて眼ときわめあり

漆川

いふあふは本軍せし所
いふあふは山をいふあり

新勅撰の帝

漆山とことうはあはれ
いふあふはあはれ

兵庫のいふ二里は

いふあふはうらうら
いふあふはうらうら

寺としてあるを堂なり
と懸念れし他くしるさうり
最通の大師 法公上人
又々うんどう堂あり海
をうりあり於 古佛之
に寺れ 寶地

一人柱乃 田新 是ハ松王ニて其
マのりなり

一清盛遷の田新 是ハ清盛の自筆
納地なり

一字 徳天皇 河新

一徳の親述 是ハ徳の親筆
なり

是亦乃 宝地百文あり

岡地あり

は石成多庫付つて清盛迄

さうちり入る 嘉保元年

二月上旬つてさうちりあり

月八月二日ハ大風大浪ハ

ゆりうーなり 同三年二月

下旬阿波民部重徳と

ゆめり 築りふ又浪風た

らつて 加純とくーいふ

地土にうゑるさうりハ千

人の人々なりなりとあり

地ありさうりなりなり加純

とくーいふなりなりなり

いふなりなりなりなりなり

者なりなりなりなりなり

さうりなりなりなりなり

家ハ清盛とれ下ハ松王

香僧なりなりなりなり

なりなりなりなりなり

わしんそまき人のかみし
うらふふふふふふふふふ
とふふふふふふふふふ
修如院と云ふ又石面三切地
まてふふふふふふふふふ
けふふふふふふふふふふ
庫ふふふふふふふふふ
とふふふふふふふふふ
ひふふふふふふふふふ
田大明神と云ふふふふ
ふふふふふふふふふ
和田乃山修みゆり

玉葉集一

入道若大政

夕陽日わ田れ山修と漕ふ

かふふふふふふふふふ

○貞徳公は 一里す

は村四ヶ村ふふふ村の中す
里ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ

拾遺集

人丸

ふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふ

福祥寺

ふふふふふふふふふ
堂と云ふ四面ふふ王門あり
は門と云ふふふふふふ
ふふふふ

寶物

一青葉集 笛 敦盛のうふふ
ふふふふふふふふふ

一ふふふのふ 是ふふふふ

一敦盛十七才は山ふふふのふ

音壽丸ヨニコソスニテタヘリテ

南無阿弥陀佛為救苦靈藥

ミタノ蓮ニトモニ生ル

源空

有法然此名号とてあり

頃广寺様

世花紅南所無也一
支於拵盜之輩者
任天永紅葉之例
伐一技者可剪一
指

壽永三年二月日

右若本乃傍一安慶の壁

書自筆也 是ホれ寶物

百ふみめく用帳あり也

二谷ハ 八丁

一の谷ハ北ハ山南ハ海口ハ
狹奥廣岸なるく屏風を

まゝとて一は所ニ平家

乃一門生田れ大なる

本戸と定城郭と稱す

わたりりいさ乃所

一つういさ一わねけね

一巖石なる一ひむりこえ

一穀盛の石なる一ひびくれ梅

○塩屋ニ 二十丁

は村泊ありいさるた一海三

三里渡路にゆり又いさるふ

阿波乃鳴門乃浦にゆり

○明石に

二里

は山城より松平若狭守より二万石
なり町あり

人丸塚

は人丸流りふき山れよあり
ひと丸乃ふきとくやあり
まのかさりし人丸乃碑石
あり

忠安墓

人丸乃ふきより二丁計
人丸乃中より

○あふねに 一里半

は所町より

○さるに

二里

は村を町よりあり

より尾よりる太子だ

わり本堂ハ書師ハ大地

○尾上

一里半

は西宮砂よりい

とふかりなり平地に

系こえき佐太の神の

やしり東向なり

少しありは鐘秋

迦天人乃形勢つけ

地肌うらうさか福の尾

どののくはくは

ありさるれは

二あり

さるの尾より○

ありさるれは

さう妙に 八丁

社あり牛頭天王南向
おどんまふ相生の松
あり根よせと地乃
社あり又葉師たう
かえありそい海也い
さこハにぶとくは漆う
泊う

拾遺集 貫之

流し世ふゆふれとさ
松とゆふとふとふと

石寶殿に 一里

は宝殿ハ東向也

御位大の神

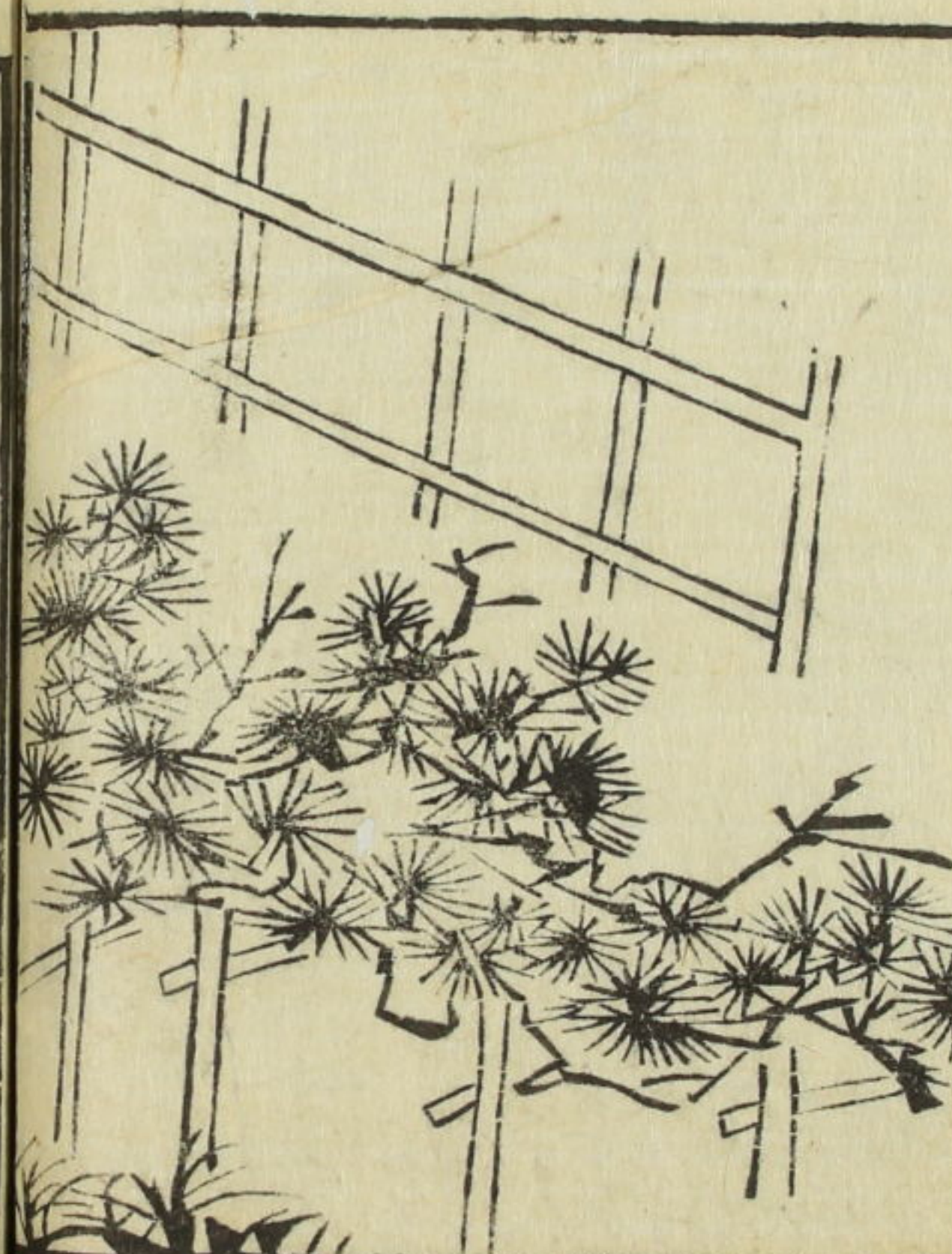
生石 大明神とて

二社ありひてあり
おどんまふ二社の神は
寶殿とゆふとふとふ
岩壁中よ石の宝でん
三つ中四方に下も岩あり
水ありてふは宝殿西
のこふふ棟ち之除勸
世乃時むゆふあり

又根に 中里

は村泊う 松東乃中
神の社あり南向
ぢん森ないむふと
あり やーうれひ
天神乃うふ松

松乃廿五六尺あり
 てうのり木々なる
 ころ程を廿寅の方
 也十の程のびて
 ありふらびりり
 ありふらびりり
 ありふらびりり
 のわしれあふハ
 ありふらびりり



二一ちやくは 一里

は村町あり泊ありはる在
牛堂と云業師堂の國

分寺と云
娘路は 一里半

は入口河あり 河城はハ
本多中務

○書寫坂本は 一里

は村町あり泊あり入るは

谷川系ありは村に女人れ

不親方堂ありと云

ぶ乃本堂ハ是より十

八丁山の上より女人

禁制あり

○書寫寺は 情磨 半里

二十七番

本堂如意輪観音と云

ひやん 義王権現

本堂毗首羯磨の御作

御長丈六 堂はけづり

十一の四面南向く性室上人

建立は是より 奥院は二

丁有は乃ハ三堂と云

なり堂三つあり 釈迦堂

は堂志よと云ん 圓教と

額あり又文殊堂あり

だう一切経堂ありおく

乃院岡山性室上人の教を

は堂東むと云る四面南よ

ねらんおは社垣の内二社

あり



けるぐとのやまに
まじりたるあり
すみのとくも
こけり
やうん
日
七百七十四年

い書山よりふれあり
坂なり法華寺あり
はる谷川に村ありは
写り清水なるあり
あり

○春日野に 二里半

は所を町ありあり

○法華寺

二十六番

千手観音一丈二尺に
本堂十一間あり
たつ向三重の塔あり
あり
光陰上人建立ハ
法どう仙人のわくれ
二十の法どう仙人



まゐるふ
秋の菊
日
九百三十二年

是より一里程れろぐり
とくま家えりり泊りし

○らんあきし 二里

は村泊ふ自由あり是より
お村ろ一里せれ中よりおて
青野と云木えりりお
それふおおしはおとめ
川とてよあした村とて
家と泊ふ自由候しお
二文は川と砂れ水とて

○野村は 一里半

は村泊あり

○やしは 二里

は村所あり泊あり

○は 二里

は村泊あり

○鴨川は 一里

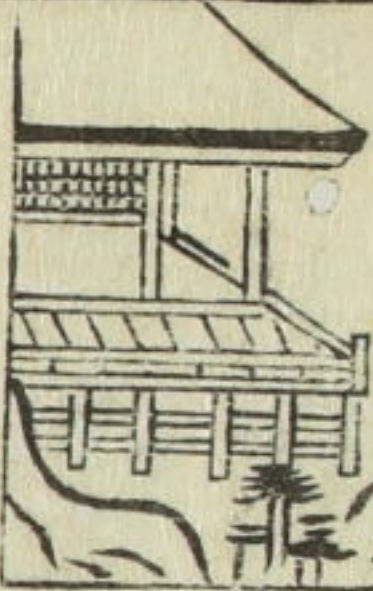
は所泊あり一里は
清水山のおりともあり
是より一里とて十八丁
山とて

○清水寺は 十八丁

二十五番

本堂千手観音の基の
御作とてまじり
地とて本堂丈六の石仏
なり堂九る四面に造
れくれん十一めん観音
堂へる四面南むとて
田村將軍わたりとて

川達まへ



ありきや

いふはまがみ

いふはまがみ

あふとくはら

あふとくはら

日
ふちん十年

三入回

丹波國 一里

は所町

いふはまがみ

古市

一里

は所町ありは所右れあ
いぬいふはまがみ丹波乃
助をきやいふはまがみ
あのかいふはまがみ
すいふはまがみ

やいふはまがみ

あ

一里

は所町ありは所右れあ
村ありは所山ありこの
は所山ありは所山あり

松平豊前守あ五万石

お山

一里

は所町ありは所右れあ

お

一里

は所町ありは所右れあ
こいふはまがみ
こいふはまがみ

新刊撰集

中納言實守

大江山ありは所右れあ

は所山ありは所右れあ

○あぐりあぐりの一里

は村主所ありあり

大なる里に 一里

は村泊ありはる川あり

石柏ありありありあり

作回に 一里

は村主所ありありあり

福知に 一里

は所代は城より本所あり

三万二千石あり一里あり

文津よりありありあり

よりありありありあり

又けりありありあり

源は森よりありあり

かきと云所、外文の所

おぢん四十未社あり

あり玉川よりあり

又二よりありあり

青雲よりありあり

内よりありありあり

いさよりありありあり

八十未社ありあり

は谷よりありあり

は所よりありあり

同よりありあり

よりありありあり

石よりありあり

ありありありあり

坂ありありあり

坂ありありあり

坂ありありあり

小袖ありい川いそく大
山酒天童子住一里見
ゆりし不福ありてたご
り金一いたハいあり
うり崎の森まは切戸
おね松の尾にりるあり
天は一里
は不泊あり
二、ぬれ木は一里
は所泊あり
おろく
は不泊ありは不業師
田天王あり
い川森は一里
は不泊ありはるるふ

坂とくおごりありこれ
うり向大江山あり
たうげの下丹波丹波
との湯あり
雲々丹波國一里
は所佛谷と云たれ山
乃上石の大佛さゆく
仏谷とあり是よりあり
てしと許とくお坂あり
いり一里
は村泊あり
お谷は一里
は所河あり泊あり給
残あて是よりはる村
あり泊あり

岩瀬 二里半

いふ五町あり入海する
右よありみちり立切
りえんきあえあり

あちふ松に一里

はふゆりあり成相乃

きんきん乃ありと又

はふゆりて切戸乃文

珠ゆくしらんねん坂

成相

十八丁

二十八番

丹後

山乃ふてふきんねん

岡山あんき上人堂

田舎ん南定ひり社

神だりあちり仁王門

ありはふをうりん

南乃ありひり

与謝乃海えゆり又

坂中ゆり天の

まゆり

續後撰集

後法性入る

茶園白大政大臣

いふきんあふれきん

道中波り袖あり

浪乃きん

いふきん

あふれ

日

六百五十八



江尻

十丁

は村泊り自由は出口より切
れたのもんが西より二里程
あり是は天竺より来り
りありりりりりりりりり
とすすすすすすすすす
りりりりりりりりりりり
ゆきりりりりりりりりり
ゆきりりりりりりりりり
松千貫きりりりりりりり
廣場りりりりりりりりり
南じりりりりりりりりり
あつりりりりりりりりり
の切りりりりりりりりり
はあはれりりりりりりり
世よりりりりりりりりり
戸よりりりりりりりりり

金葉集

あつりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりり

切戸文珠

一里

本堂より西面南向文珠

りりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりり

額より本堂より其金山

丁酉仲春日 若くは隠えりり

門は海上禪堂より有は筆
者より本堂より泉よりり

まのりうと流のゆり
のきとくは昆布
めれこひれそて又
陸地とけはん回より由
ふれとて二里
る七曲より八時とて又
十丁の内小坂ありゆ
はーあうんちあけ
由六漆はあけ
れ塚山井太史やーき又ハ
國分寺なる記又山録
首のりあて松もあり
はゆり一里にて中山
とてあり是より二里
けて河色はあけ山城

牧野田情あり三万八千石
はあり二里すけて松
乃尾之陸地あり

○あわしは海上二里

は村泊あり
登り尾は 一里

は村ありと泊あり是
より松尾よりとてより坂
半里より松山村あり

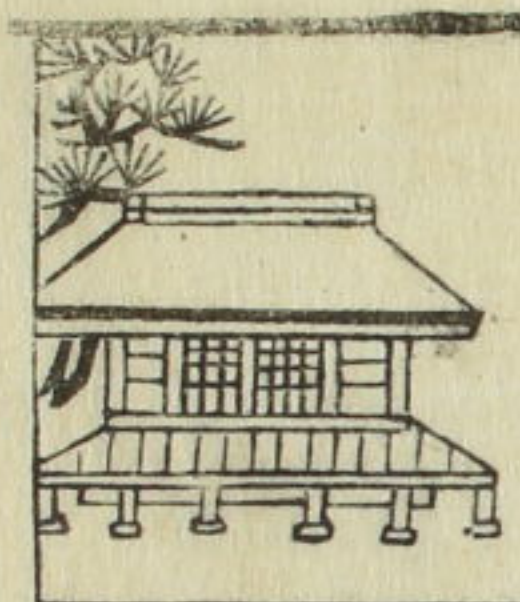
○松尾より 半里

二十九番

馬次観音よりとてあ
とんあり 岡山より
上人は本よりとて観音

乃枝の浦よりよりある
 堂ハ又四面南向あり
 乃々并又天仁王門あり
 本堂乃内ニ宗大吏の像を
 是ハ佛ノ縁をてい宗
 大吏あり付海ノ流に
 時今人々んがよて
 ありひ白ふとせあひ
 此宗大吏つまより
 とやん子細ありと所
 の次乃枝宗大吏子孫
 若狭の國ニ付浦と云
 いまこありと又奥
 五十丁と山のなりけり
 持現のやーろま奥

みる廿人禁部なり
 ねふよりり改中り
 丹後と若狭とのさふ



そのみま
 ねの尾乃寺
 九百九十九

三つまた一里

若狭國

け村泊あり海邊に
 け海に海に
 け石町あり泊りけり

入海家おもしろくある

はる村あり

本に 二里

は村泊ありはる入海

お原 一里

は村泊ありはる海べ又

小坂二つある

小濱 二里

は下れは城と酒井鞆屋

十二万石ありは入口

は八百姫の神の文

ありは文二社あり

八百姫大神の神門八百比良尾

へ天照大神宮

へ竜ヶ鞍 太刀 是八百の文
宝剣 新文

は是役行者の社又十二社

ありおんあり又

本社の山のふもとあり

石若狭の井あり又社

のト社ありは宝物

あり

八百姫あり

一竜文の境

一姫の山氣等者あり

一人魚の文あり

は山号白椿山八百姫大神

ありは八百比良尾へ入

龍文、いさりあり、時人魚
とりてまゝい魚とあり
むめよあり、あゆみ八首
年のよりひみちたをちて
諸國と修りきて、お國
くよありとあり、お
あふ又いむめ、くれあひ
より、あゆみ寅のより、
凡三百八十年ありて、後
文國帳とて、社人修り

○あふありは 一里

は村立町とあり、あり、
大の神の文あり、い地、
弘法大師の大役若経と

けり、あり村あり

○おろ谷は 一里

は村泊あり

○こやけは 一里

は村泊あり

○おろは 一里

は、おろ谷川あり、い出
は、お國所あり、いあり、
女は、お國所とあり、
おろは、いあり、

○山中は 一里

は村泊あり、いあり、番
所、お若狭と、おの隅
あり

○おん飯は 一里

は、お國、お

は村仰りありはるお坂に
進合は 一里

は村泊りありは出口に竹生橋
のりお湯うはと今津
のりれりありけしけ
れありし海にる熊野
山登とく二里のるお
停吹山とる

おうばに 二里

は石泊りし長命もそそ
海上十六里九十石入の舟
を費三百文ありきふのり金
人殺井人あり

竹生橋 海上 二里

三十番

千手観音の基の山作堂
七石四石ん南に是より
行くのりんれりありし
なりし是よりし浦山お然
みゆり奥れ院ハ并々天に

實地

一ちしうれりんまの物に

一法親經 小登のたけの山名

一天竺東の山舍利 恵果より

一面向不肖の玉 四三の

一天竺の山筆 金剛經

一ちのわれ内三きれり

一ちれりれり三きれり

一ちのりれり十三佛

一ちれり おま石地衣のりんの

一土像の布袋 弘法大師の作
 一仁和寺寛寛 和尚の衣冠の模
 一室也上人のりり のりり
 一義経太刀 二条にありけり
 一四糸 衣をいへて、勢田のり
 一白 るれ角
 一 りんやれ
 一 あつた
 一 はるのた
 一 はるのた

八文あり、開帳し、不_レ保_レの
 者の基_レが、_レう_レん_レ堂
 景_レの天皇十年一夜 金
 除_レり のり
 け_レ下_レの 家



月 とに 波るふ
 う か り 生 信
 う り か か
 つ む さ 海 ま
 日 ふ 百 年 の か

長_レ 寺 に 十二 里
 海上 近 江

三十一番

い 村 ゆ り ー ら ん ん ハ

み六丁とる 正観音

ふくろびやんいん
とんちん太るれい
なりきいんかき
けいこりれい本堂七
四多ん南白いー塔
ごりだうと西き
あまふ葉師堂あり
外堂ありとるい
鏡山又三山いん
乃然ーた八幡山
やんや柳がた
いんは
あまふ
日八十九年



是よりい村陸地二里
半永ハ二里いふ人十人
みそのも

○きいんいあて一
は村破き也泊ありい
小き山の上は堂塔あり
信長公此山廟ありと
きりり山いりて観音
されありとあり泊
是よりいーさの坂
あり時城ありあり
石よりいありけ
れなり

○観音寺に 一里

三十二番

千年親音三尺の太子の
 石作仏くしとてまゝなぐ
 部やちん堂又おちん
 南の方の東の方のつこ
 堂より小文うつりて



○所屋に
は不系海乃之町ありと
伯

越川
一

は所を治し入る

四十九院
一四六

此所町あり伯あり

高久
一里

大社と額あり
 多賀の多居あり多賀

○多賀仁 一里

本社 本地 阿彌陀如来之
うんどん 弁 勢至弁
おどん 兼 臺ありこ
か臺あり 六月中の
午ふ 融あり 町ふ 伯う

丁里宋

は取町あり泊りしは
すりありとく小坂あり
波々あり是より
行生懸るなり

一里八分

いふ所ありけり

醒井 一里

以取田泊以取處

以
地
石
地

傳教文解の由

作以所之

次町上急ハ

三
災
老
の
水

又思

堂のうへは日本武尊の
ゆかりの石あり

○ 柏原 12
一里半

此所依うは西の

御殿ありは馬三
福徳寺

とそぬいとのぬい

家六ダシ漸シあ

今頃
一里

はふ所ちうのう

わらう候の
書親此封

多あり又けろ山すゝと

子不^レ常盤^ノ石^ヲ

乃

一里八丁

大下河あり泊りし時

ひつさねむきあり園が
系原といはれむき合我
あり

○聖サレ 一里

は石町ありゆるい
町入口とわいふみ川
あり

詞花集

ひうえーきみれうの
後ろく新世年々あり

は町石の名井ありい
とみ城の明神の名井

○宮城は 八丁

本社金堂大の神越が
おらん塔あり門

こが堂教多ー山乃
上南はる山の神とて
とくれんれふ衣あり

は山は観音堂とありは
城泊あり是より谷坂

右の聖井、度たりは
の崩成り、音のあり

は聖ひくくして松原
も又一本松とて大さ

くまわく見ゆわの
うつろい又ありと

乃山よんえん堂
朝長れ石とていあり

うた村の海下あり
石はすきひの村あり

けふ如来寺といふるは信
 譽の云々あるれ如来れり
 乃佛を又いふ山は岩穴と
 あり敷くすなりあり然
 坂のわかれわかれ大さか
 いしあかにはくみてあり
 蓋石といふ大石と云ふ
 赤坂は 一里十丁
 けふ町ありいふ山
 上は虚空蔵の寺次賜
 せしひやもん三佛と
 石像なり岩はけい
 かへしすなり堂は
 岩はわりけりあり
 ねんまあり門あり

けふとありて先他田は他
 田は東にてなかりあり未
 膳村をいへばおぼし一
 つけふとありたの上の山系
 大さあり岩ありの事
 八里と云ふと云ふ

坂乃下は 三里

けふ村あり是なり 深坂
 とく小坂あり越てけ
 のたあつものまいて
 ありけいさよすく
 おあり室へく
 の山は岩と云ふ石あり又
 念佛なりけり坂なり
 けふに念佛なりけり

川に源字あり之川中石

谷汲に産 二里

三十三番

本尊十一面観音より立
おとく印やもんおとくハ
文珠の所作之宿に地獄の
通ひより故に衣ねき
うきとあり又びきりん
天神の所作ふ動ハ人作
又同堂内にぬの方にかき
同の所作も慈覺大師の
所作又うんけいの所作
あり大日如来の秘法
大師の作の不動あり本

堂八万四千なんんとい又
あり仁王門よりか
堂あり本堂のうら
藝のあり

寶持

- 一三十三本観音の所作
- 一三千佛の所作
- 一三だいもん
- 一初らん像
- 一後奈良院の筆文紙
- 一佛舎利
- 一観音の珠教
- 一由石

是ふのたし物あり又
地より産するものあり

